

嬉野温泉駅周辺
まちづくり委員会

提言書

平成 28 年 3 月



目次

序 検討の目的	1
1. 検討の目的	1
2. 対象範囲	1
3. 提言の構成	1
I 計画条件の整理	2
1. 産業	3
2. 人口推移	3
3. 観光	4
4. 市内既存施設の概況	7
5. 既往計画	11
6. 計画条件のまとめ	16
II 駅周辺まちづくりの目標	18
1. 上位計画から導かれる駅周辺まちづくりの目標	18
2. 交流の主な対象（ターゲット）	19
3. 嬉野地区全体の中での駅前まちづくりの位置づけ	25
4. 計画の目標	29
5. まとめ	30
III 導入機能の検討	31
1. 導入機能の考え方	31
2. 導入施設	33
IV 土地利用方針の検討	36
1. 検討の前提条件	36
2. 土地利用の考え方	37
3. 景観形成イメージ	45
V 事業手法の検討	48
1. 事業化に向けての基本的な考え方	48
2. 事業体制のありかた	49
3. 事業推進のありかた	51
4. 建設費概算	51
5. 事業スケジュール	52
6. 用地配分の検証	53

7. 来訪客数等に関する試算.....	55
VI 今後の課題	58
VII おわりに	58
資料編	59
1. 委員会名簿.....	59
2. 委員会開催日程.....	60
3. 佐賀大学大学院三島研究室演習成果.....	60

序 検討の目的

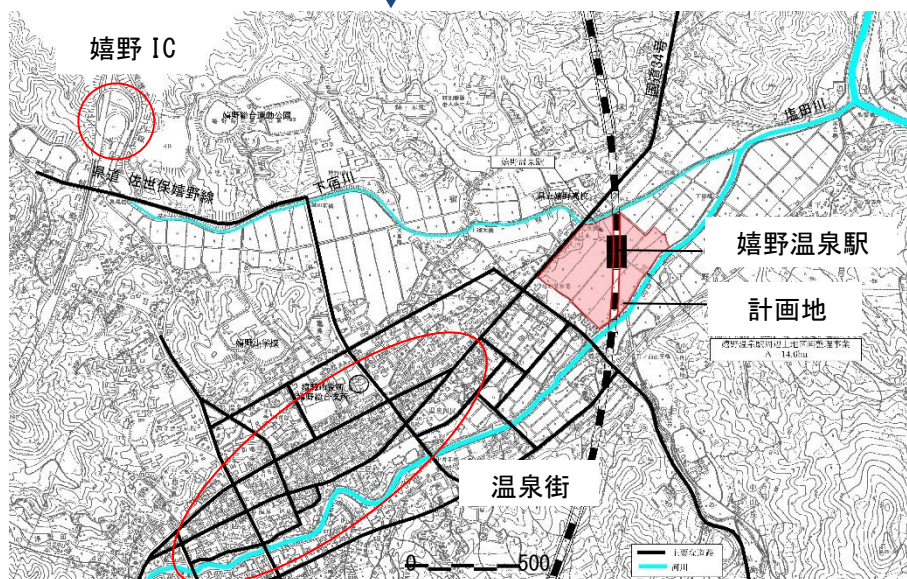
1. 検討の目的

九州新幹線西九州ルート整備を嬉野市の新たな発展の契機として活かしていくためには、将来を見据えたまちづくりに取り組んでいくことが不可欠である。特に嬉野温泉駅が新設されるにあたって、駅周辺の土地区画整理事業区域はもちろん、中心市街地や医療センター跡地の活用までを視野に入れて、広域的なまちづくりのありかたを検討していく必要がある。

本委員会では、こうした観点からまちづくりの方針案や整備イメージを検討し、ここに提言書としてまとめるものである。

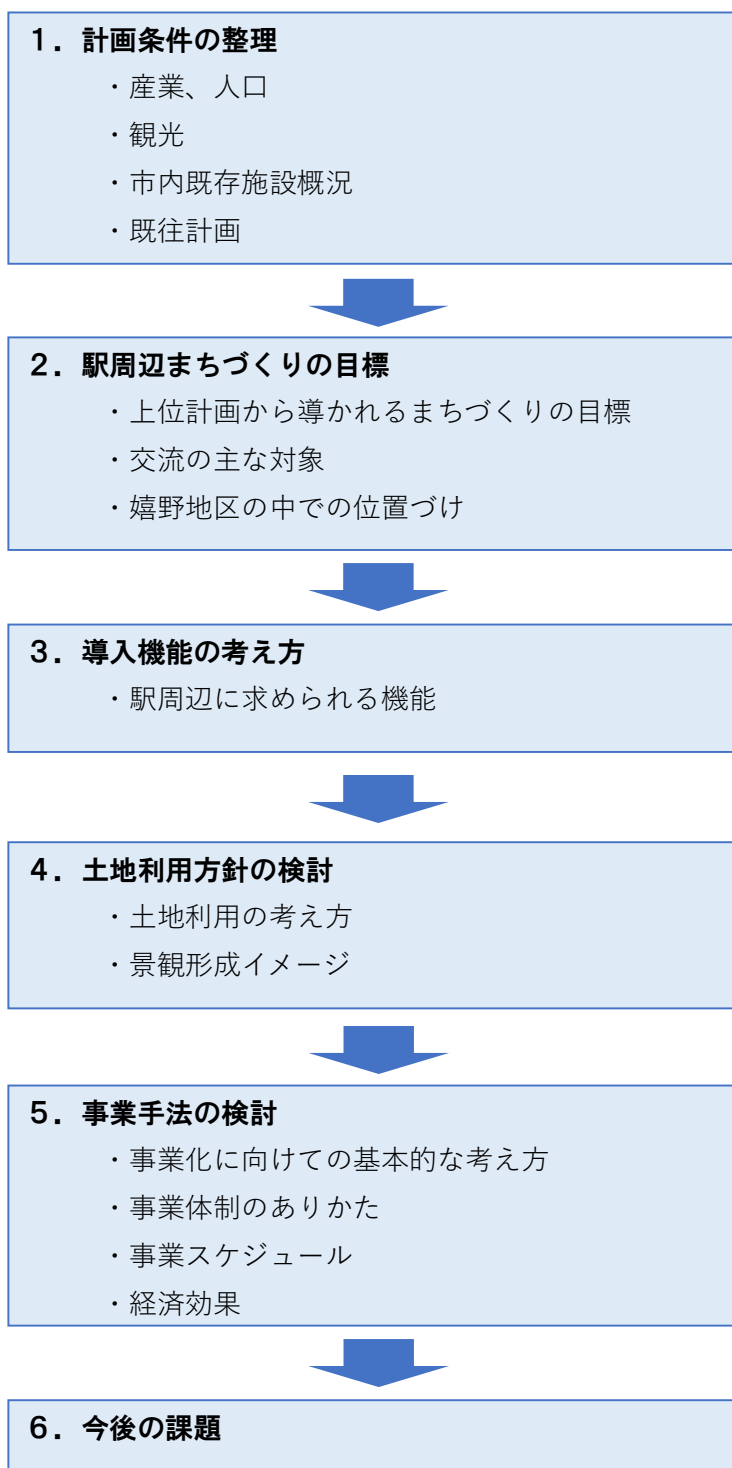
2. 対象範囲

嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業区域



計画地位置図

3. 提言の構成



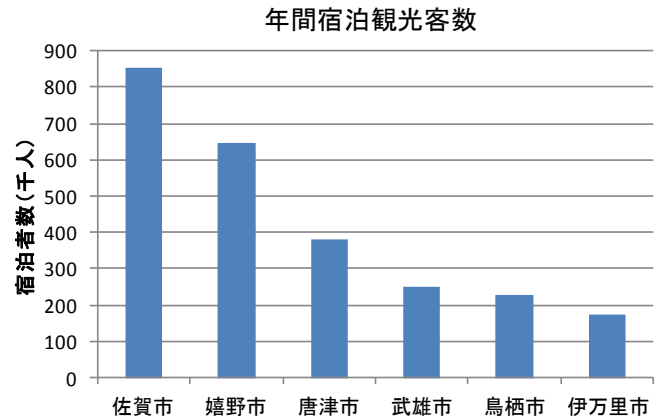
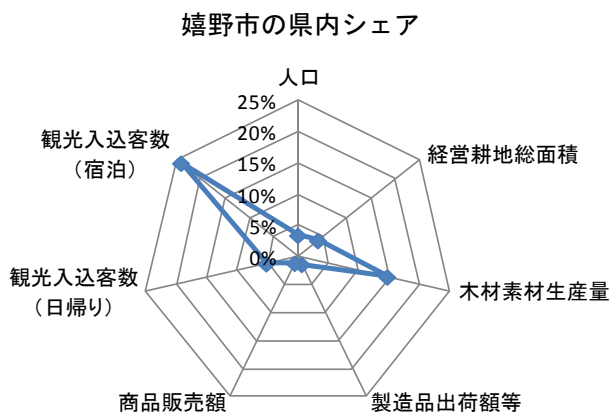
I 計画条件の整理

1. 産業

- ・工業出荷額、商品販売額とも県内での割合は低く、観光産業の位置づけが大きい。
- ・特に宿泊客数の県内シェアは突出しており、宿泊観光地としては佐賀県随一といえる。

産業に関する主要指標

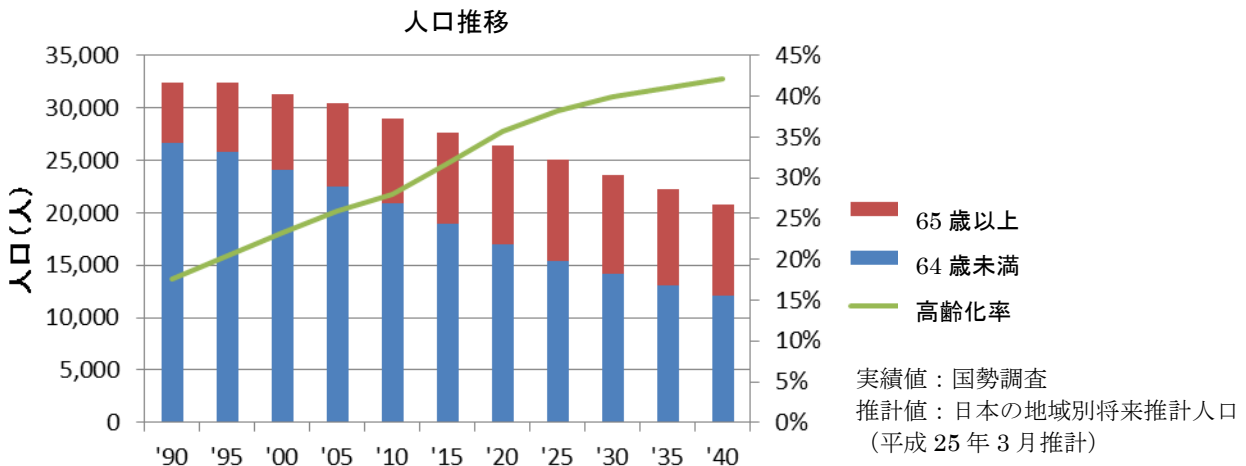
	実績値	県内市町における順位	県内シェア	出典
人口	28,984人	9位	3.4%	国勢調査（平成22年）
経営耕地総面積	1,945ha	9位	4.1%	農林業センサス（平成22年）
木材素材生産量	9,770m ³	3位	14.7%	農林業センサス（平成22年）
製造品出荷額等	220億円	17位	1.3%	工業統計調査（平成25年）
商品販売額	206億円	13位	1.4%	商業統計調査（平成26年）
観光入込客数（日帰り）	140万人	6位	5.2%	佐賀県統計年鑑（平成26年）
観光入込客数（宿泊）	65万人	2位	24.0%	佐賀県統計年鑑（平成26年）



佐賀県統計年鑑 H26

2. 人口推移

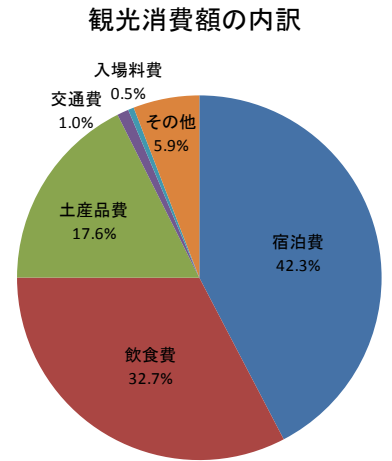
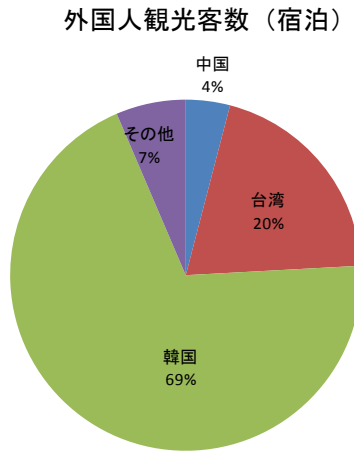
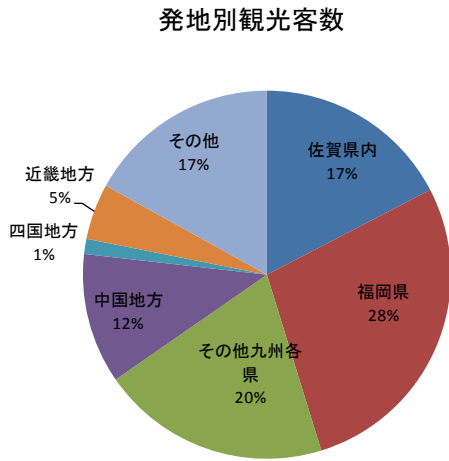
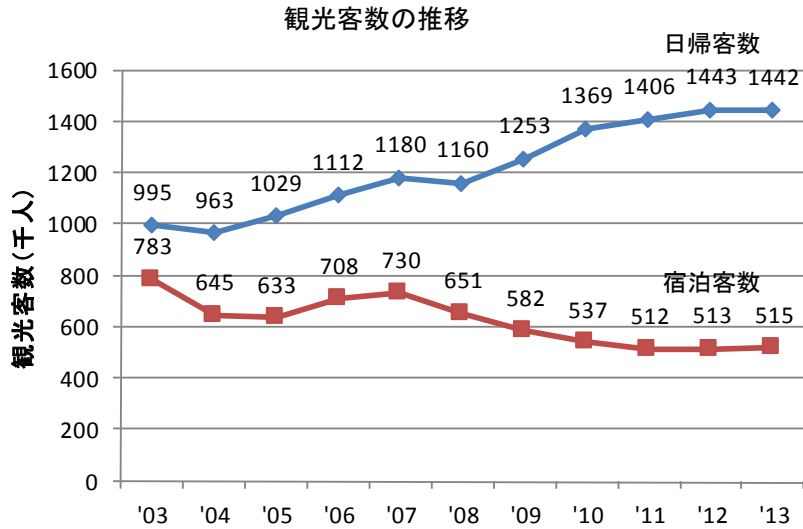
- ・嬉野市の人口は減少傾向にあり、現状のまま推移すると平成52年（2040年）には約2万人になると推計されている。
- ・一方高齢人口は増加しており、平成52年（2040年）には高齢化率42%と推計されている。



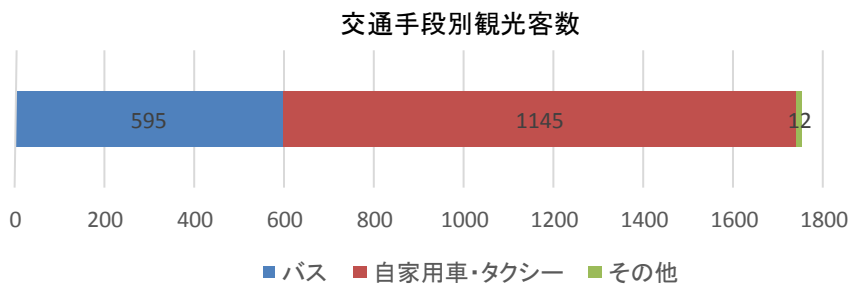
3. 観光

(1) 観光客の動向

- ・ 宿泊客数は減少傾向にあり、日帰り観光客が増加している。
- ・ 九州圏内からの観光客が約7割を占める。
- ・ 外国人観光客は年間約2.1万人で、宿泊客の約4%を占め、平成24年から25年の1年間で倍増している。韓国からの客が圧倒的に多い。
- ・ 観光消費額の中では宿泊費が最も多い。
- ・ 利用交通手段は自家用車・タクシーが最も多い。



出典：嬉野市市政要覧
(平成26年)



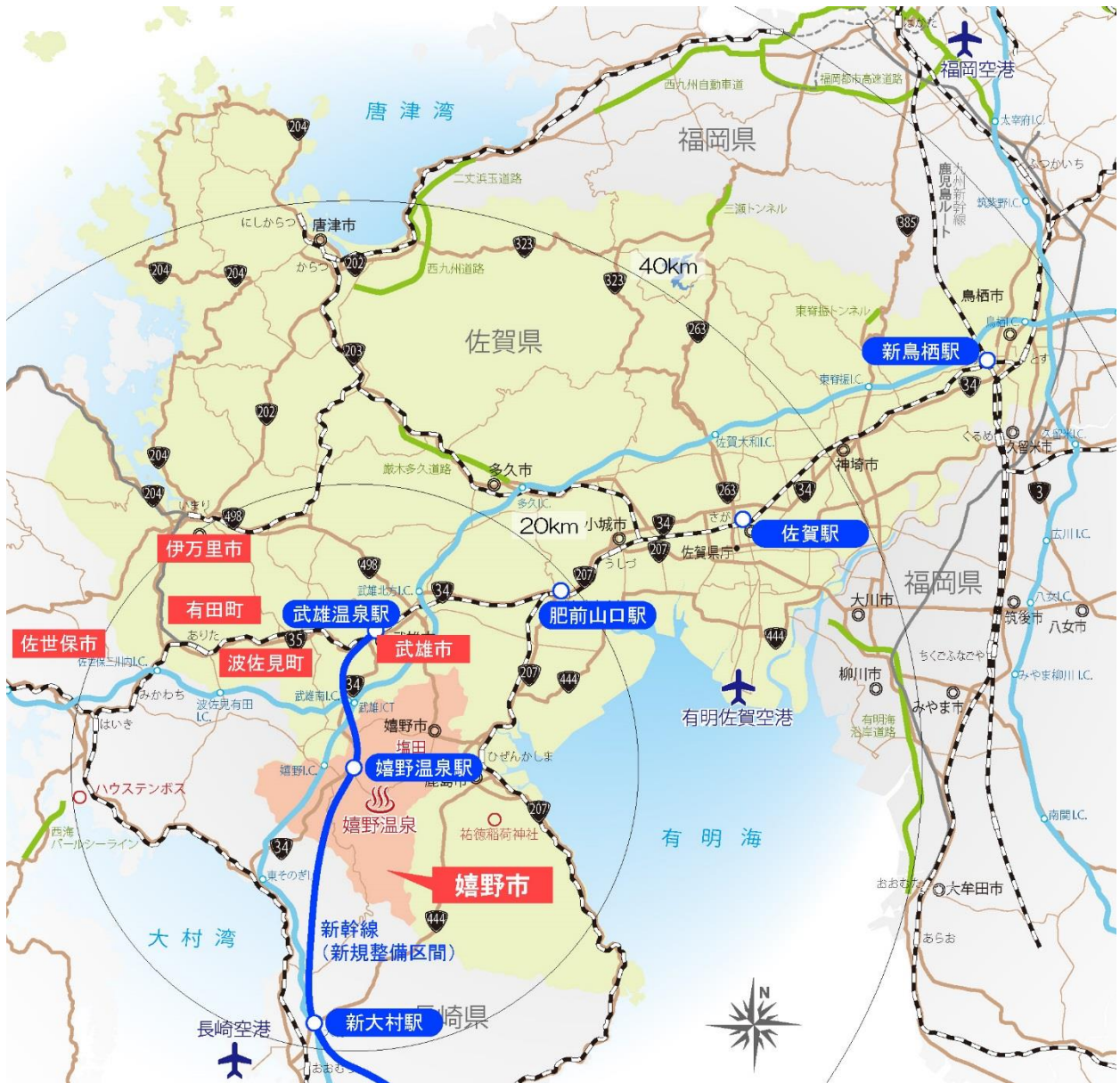
出典：佐賀県統計年鑑
(平成26年)

(2) 主な観光資源

- ・嬉野市周辺には有田、波佐見、伊万里、武雄、唐津、佐世保などの観光地が集まっている。
- ・嬉野市の最も重要な観光資源は、日本三大美肌の湯のひとつとされる嬉野温泉である。
- ・市内の主要な観光ポイントとして、嬉野エリアではシーボルトの湯、肥前夢街道など、塩田エリアでは塩田津の町なみなどが挙げられる。
- ・特産品としては、温泉湯豆腐、うれしの茶、肥前吉田焼、地酒などがある。

(3) 交通アクセス

- ・長崎自動車道に加えて新幹線が整備されることで、広域圏における重要な地位を担うことが期待される。
- ・新幹線は長崎自動車道とほぼ並行して走る計画である。嬉野市街地までの距離は、嬉野温泉駅から約1km、嬉野ICから約2kmである。



「うれしのほほん」 記載地図に加筆



ハウステンボス



武雄温泉



有田焼



祐徳稻荷神社

周辺地域の主な観光資源



肥前夢街道



轟の滝



茶畑



シーボルトの湯



肥前吉田焼窯元会館



志田焼の里博物館



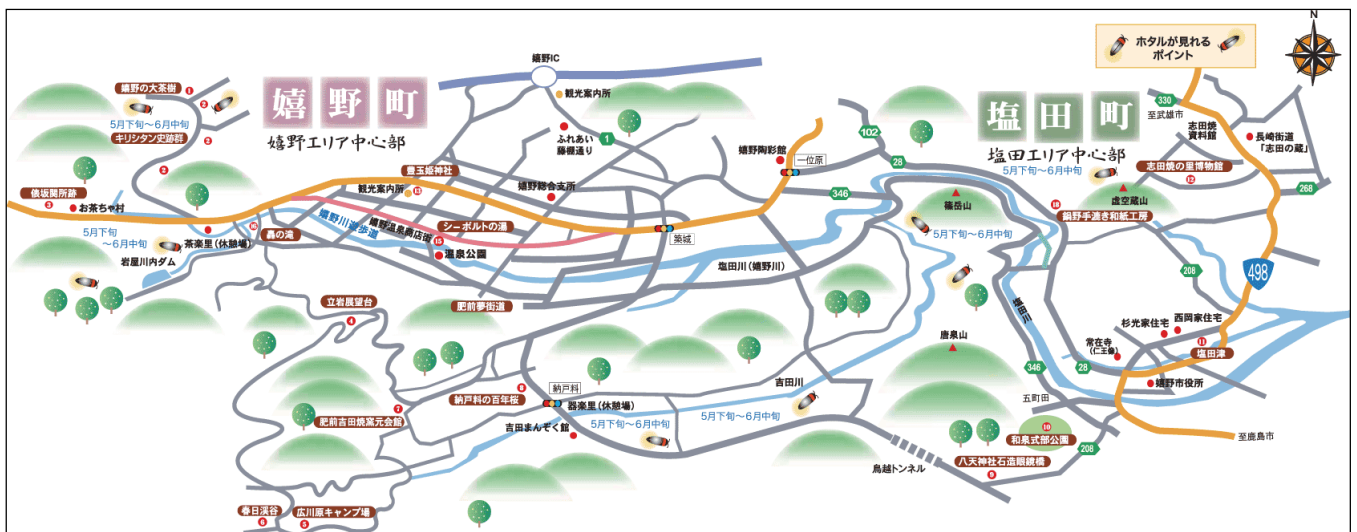
塩田津の町なみ



瑞光寺

市内の主な観光資源

写真出典：嬉野ぶらり本



市内観光マップ

出典：嬉野市ホームページ

(4) 嬉野市の観光に関する課題

・嬉野市の観光に関する課題としては下記が挙げられる。

①市内に立ち寄りポイントが少ない

・宿泊客が立ち寄って楽しめる場所が市内に少なく、有田などの周辺観光地に流れる客が多い。

②宿泊客の行動が旅館内で完結している

・町に人があまり出ていかないため、賑わいを感じられず、結果としてますます人が町に出ないという悪循環となっている。

③歓楽街的なイメージが残る

・歓楽街として栄えたかつてのイメージが残っており、魅力的なまち並み景観とはいえない。

・近年は全国的に団体観光から個人観光にシフトしており、黒川温泉や由布院など緑豊かで落ち着いた温泉に人気集中している。嬉野温泉はどこにも負けない泉質を誇っており、さらにまち並みの魅力を向上させることができれば、今以上に人気を博すことが十分に可能と考えられる。



観光地としての魅力に乏しい
中心街のまち並み

4. 市内既存施設の概況

(1) 公共屋内施設

- ・嬉野地区内のホールとしては嬉野市公会堂がある。築 50 年以上が経過しており、建替えの検討も今後必要と思われる。駅周辺地区を移転候補地のひとつとすることも考えられる。ただし稼働率は高いとは言えず、施設自体の利用方法や必要性についても検討が必要である。
- ・嬉野中心街に位置する 2 つの体育館はいずれも稼働率が高い。老朽化が進んでいることから、駅周辺地区を移転候補地のひとつとすることも考えられる。

嬉野市内公共屋内施設の概要

①ホール

○嬉野市公会堂

- ・昭和 32 年（1957 年）開館
- ・大ホール（420 名）、会議室（38 ㎡）
- ・稼働率は 50%以下

嬉野市公会堂利用件数

		ホール	会議室
利用 件 数	有 料	46	129
	無 料	82	13
	合 計	128	142
利用日数		156	167
稼働率		43%	46%
利用人員		35,175	

○嬉野市社会文化会館（リパティ）

- ・平成 26 年開館
- ・文化ホール:463 席
- ・メインアリーナ：バスケットコート 2 面
- ・サブアリーナ：14.5×14.5m
- ・会議室：7×5m

②体育館

○嬉野市体育館

- ・昭和 45 年（1970 年）開館
- ・バスケットコート 2 面
- ・稼働率は約 80%と高い

嬉野市体育館
利用件数

利用 件 数	有 料	254
	無 料	94
	合 計	348
利用日数		285
稼働率		79%

嬉野社会体育館
利用件数

利用 件 数	有 料	697
	無 料	27
	合 計	724
利用日数		332
稼働率		92%

不動ふれあい体育館
利用件数

利用 件 数	有 料	167
	無 料	5
	合 計	172
利用日数		159
稼働率		44%

○嬉野社会体育館

- ・稼働率は約 90%と高い

○不動ふれあい体育館

- ・中心街から離れた地域体育館

③コミュニティセンター等

○嬉野市コミュニティセンター楠風館

- ・平成 16 年開館
- ・研修室、和室、調理実習室、トレーニングルーム、浴室、フリースペース、展示館
- ・年間利用者数 36,314 人（平成 25 年度）

みゆき記念館利用件数

		ホール	会議室	茶室
利用 件 数	有 料	42	42	6
	無 料	4	4	1
	合 計	46	46	7
利用日数		54	52	12
稼働率		15%	14%	3%

○みゆき記念館

- ・ホール、会議室、茶室を備える

*利用件数は平成 25 年度。稼働率は開館日数を 360 日／年として算定



分布図

施設写真



嬉野市公会堂



嬉野市社会文化会館



嬉野市体育館



不動ふれあい体育館



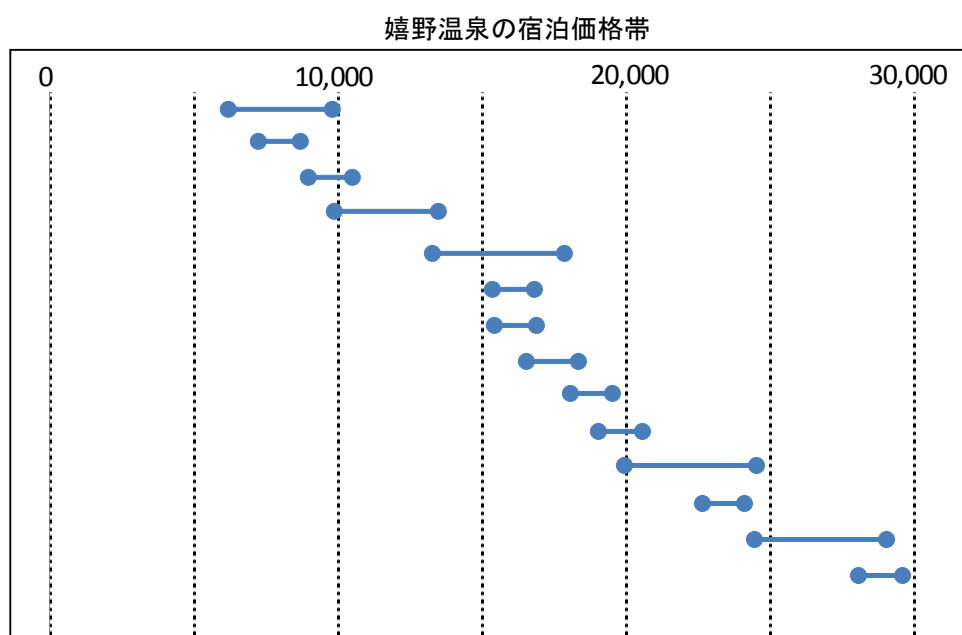
嬉野市コミュニティセンター楠風館



みゆき記念館

(2) 宿泊施設

- ・温泉街の旅館は現在約40軒、総客室数約1050室、収容人員数約4,500人である（嬉野市都市計画マスタープラン 平成24年による）。
- ・ホームページで予約可能なプランはほぼすべて2食つきである。価格帯は6,000円台から30,000円台まで幅があるが、多くは15,000円以上である。
- ・食事のないビジネスホテル系の宿泊施設はなく、この点では駅前地区に立地の可能性がある。



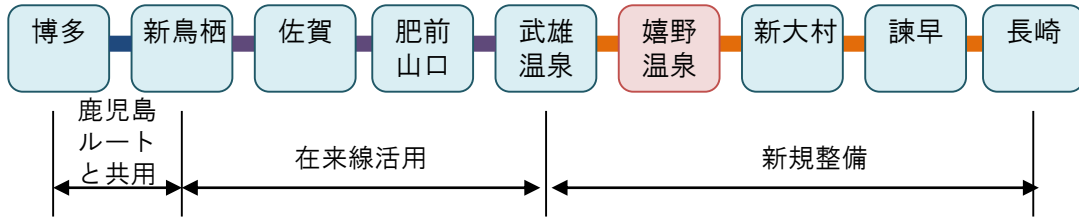
* 1泊2食、2名一部屋の場合のひとりあたり料金
* 平成27年5月第4週の土曜の価格

資料 : Yahoo!トラベル HP

5. 既往計画

(1) 新幹線西九州ルート

- ・新幹線西九州ルートの開通により、博多～長崎間が最速 80 分で結ばれ、現在の特急かもめより約 28 分短縮となる。
- ・武雄温泉～長崎間は平成 34 年度開通予定である。
- ・嬉野温泉駅には新幹線の半数程度が停車し、1 時間に上下各 1 本程度となる見込みである。
- ・嬉野温泉駅周辺整備基本計画によれば、嬉野温泉駅の乗降客数は 2,100 人/日と想定されている。



事業スケジュール

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
新幹線	高架設計等	用地測量	用地買収・建物補償	高架本体工事・軌道工事・駅舎建設工事						試運転	開業(予定)	
土地区画整理事業	農政局・整備局協議	都市計画決定 農振除外 国土利用計画 区画整理事業認可	仮換地指定	用地買収・建物補償		調整池工事・道路工事・整地工事等	整地工事・公園工事・緑地工事等	駅前広場・駐車場整備				
医療センター		協定調印	設計・工事				開院(予定)					
施設				整備・運営計画等			設計・工事等		開業(予定)			

▲ 本年度

(2) 嬉野市総合計画後期基本計画（平成 26 年）

- ①まちづくりの将来像：「歓声が聞こえる嬉野市」
- ②まちづくりの基本目標：「世代をこえて住み続けるまち」「個性輝く魅力あふれるまち」「活力のある自治先進のまち」「みんなで創る自立のまち」
- ③土地利用の基本方針
 - 「美しい自然環境、農業的土地利用の保全と有効活用」
 - 「貴重な歴史的資源・文化的景観の保全と環境形成」
 - 「九州新幹線西九州ルートへの整備効果を活かした魅力ある市街地形成と保養型・滞在型・体験型の健康保養地形成」

(3) 嬉野市都市計画マスタープラン（平成 24 年）

- ①基本理念：集約と連携による新しい嬉野市の構築
- ②都市の将来像：誘う・魅せる・親しむまち
- ③基本目標
 - 「誘う」：広域交流における佐賀南部集客 No. 1 のまち
 - ・広域観光のまちづくり：観光誘客における地域間競争力の強化
 - ・交流機会創造のまちづくり：嬉野市に訪れる新たな需要の開拓
 - ・産業文化交流のまちづくり：嬉野温泉駅周辺地区を産業・文化の広域交流における連携拠点と位置づけ

- 「魅せる」：独自の新たな価値を生み出すまち
- 「親しむ」：市民力により地域の特性が輝くまち

④嬉野温泉駅周辺地区に関する市街地整備の方針

- ・新たな都市交流拠点の形成に向けた高次都市機能の集積核の整備
- ・嬉野温泉駅を中心とした交通体系の構築：交通結節点機能を強化し、新幹線利用に向けた環境を整備
- ・都市の顔として、もてなしの空間整備とシンボル性の高い景観づくりを推進



まちづくり方針図（嬉野市街地地域）

(4) 嬉野温泉駅周辺整備基本構想（平成 21 年）・基本計画（平成 22 年）

①まちづくりのテーマ

- ・嬉野市全体のテーマ：来ても住んでも嬉しくなる「もてなしと交流のまちづくり」
- ・駅周辺のテーマ：人・もの・情報がふれあう「もてなし交流拠点」

②基本方針

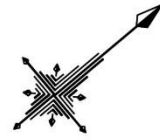
- ・西九州地域の新たな玄関口
- ・生活文化を醸成・創造する交流空間づくり
- ・市街地との役割分担・連携
- ・ユニバーサルデザインによるまちづくり
- ・市民・事業者・行政による協働のまちづくり

③導入機能（案）

- ・交通結節機能 ・情報機能
- ・地域振興機能 ・交流・連携機能
- ・癒し・休憩機能 ・居住機能



整備イメージ図



嬉野都市計画事業 嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業 土地利用計画図 S=1:2,000



凡 例	
	施行地区区域界
	都市計画街路
	区画街路
	住宅地
	商業・業務地
	公益施設
	厚生施設（病院）
	駐車場
	河川・水路
	公園
	緑地

(5) 嬉野医療センター移転計画

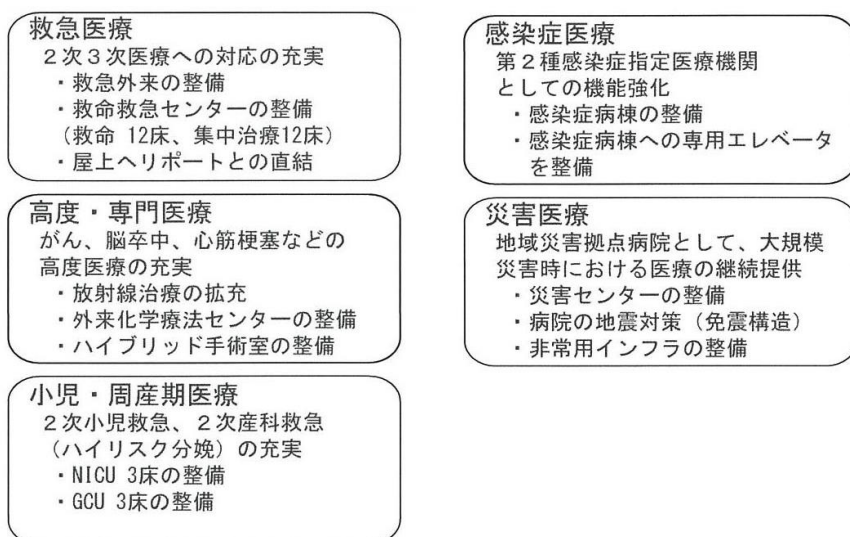
- ・嬉野医療センターは県南西部の広域拠点医療機関に位置づけられ、424床、21科の診療科目の他、地域医療連携、総合リハビリテーション、研修機能を有する。
- ・駅周辺に移転が決定しており、平成30年度開院予定である。

○計画概要

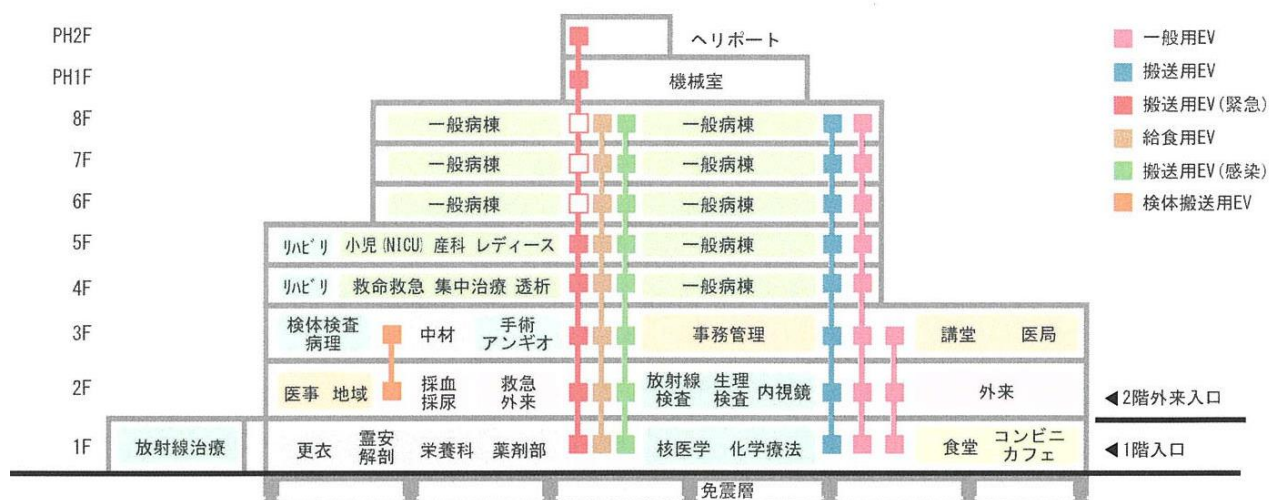
- ・病床数 424床
- ・診療科 26診療科
- ・建物規模

	病院本棟	看護学校	学生寮・研修施設	保育所
敷地面積	約 38,500 m ²	約 14,580 m ²		
延床面積	約 38,150 m ²	約 2,200 m ²	約 2,990 m ²	約 465 m ²
階数	地上8階 塔屋2階	地上2階	地上5階	地上1階
駐車台数	外来患者用 285台 職員用駐車場 535台			

・主な機能

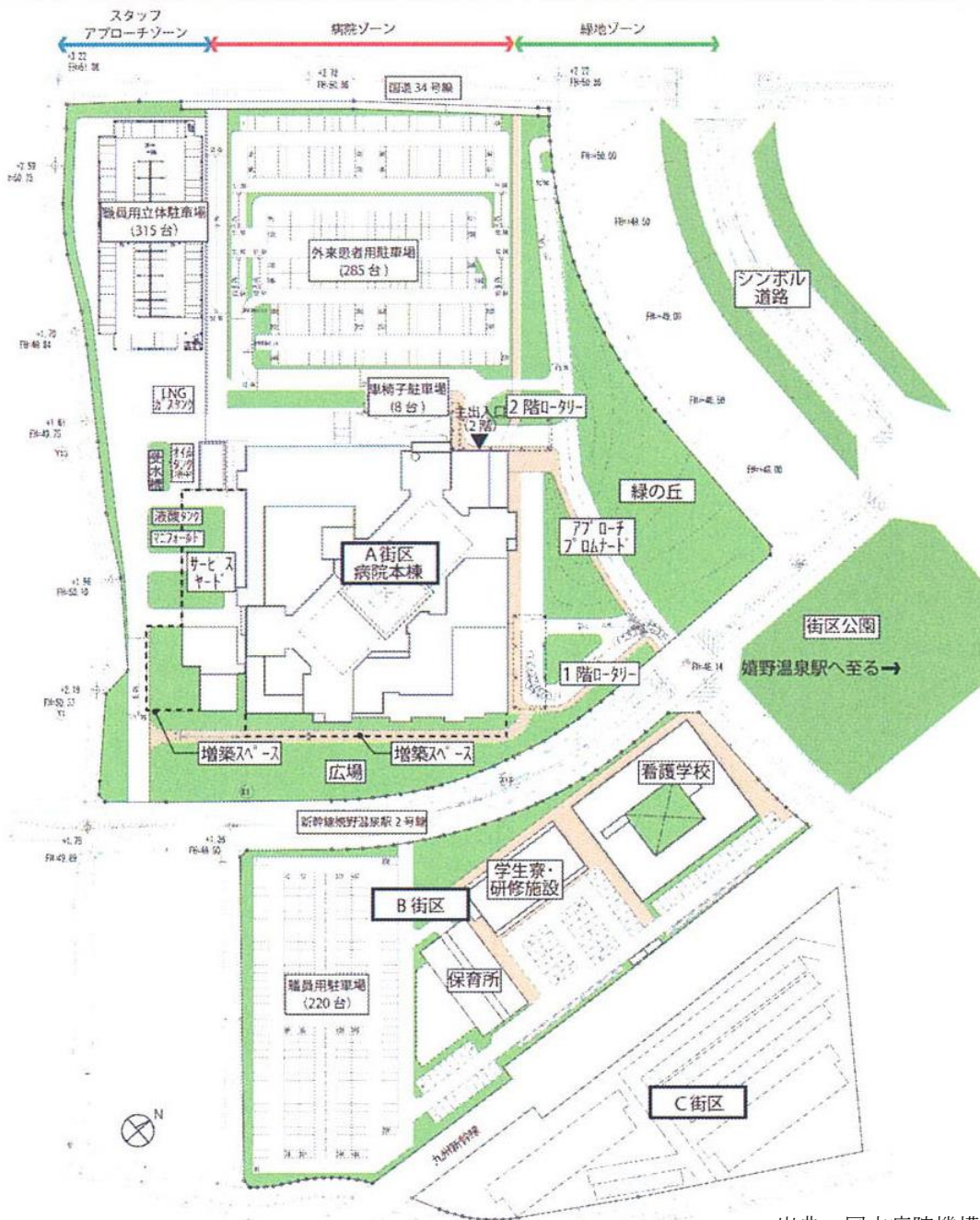


・階構成





イメージ図



配置図

出典：国立病院機構嬉野医療センター
基本設計概要パンフレット

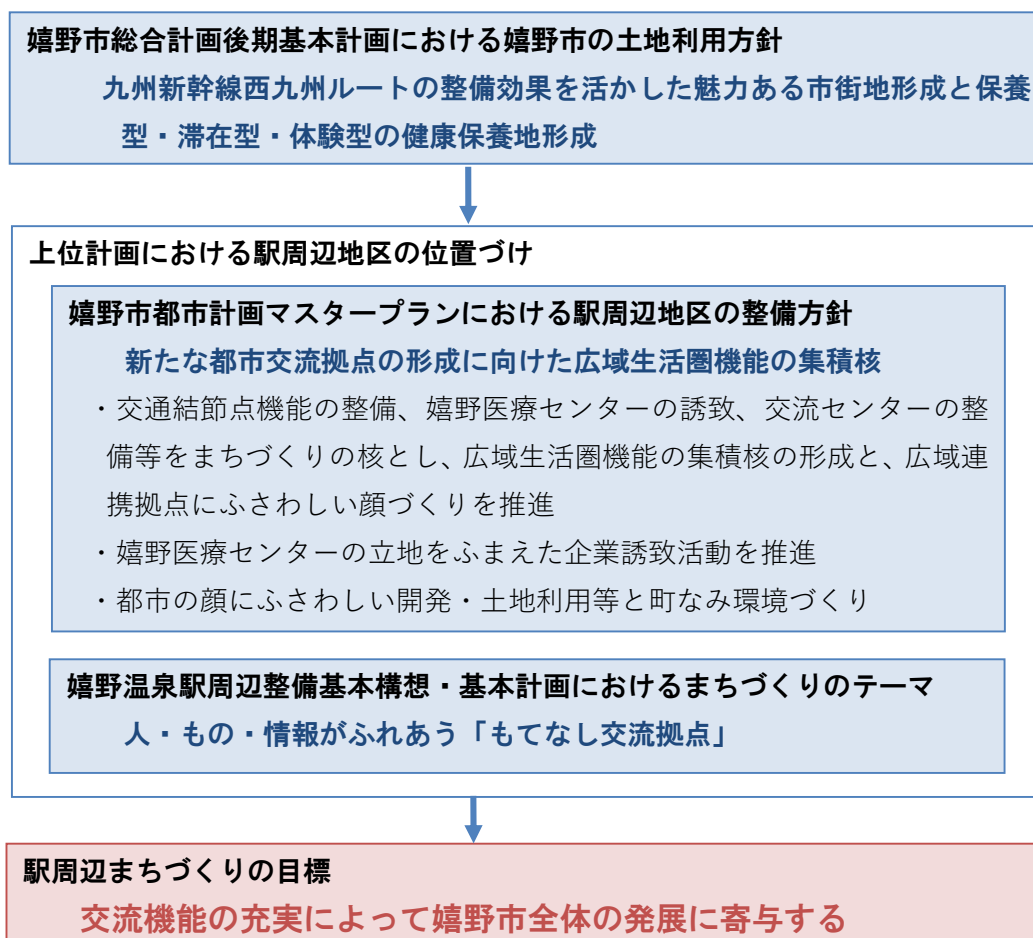
6. 計画条件のまとめ

1. 産業	・観光産業の位置づけが大きい
2. 人口推移	・人口は減少傾向。高齢化が進行
3. 観光	
（1）観光客の動向	・宿泊客数は減少傾向。日帰り観光客が増加 ・九州圏内からの観光客が約7割
（2）主な観光資源	・日本三大美肌の湯 ・シーボルトの湯、肥前夢街道などの観光ポイント ・うれしの茶、温泉湯豆腐、肥前吉田焼などの特産品 ・周辺には有田、波佐見、伊万里、武雄、唐津、佐世保などの観光地が存在
（3）交通アクセス	・長崎自動車道に加え新幹線開通により、広域圏における重要な拠点となりうる
（4）課題	・市内に立ち寄りポイントが少ない ・宿泊客の行動が旅館内で完結 ・歓楽街的なイメージが残り、まち並み景観の魅力に欠ける
4. 市内既存施設概況	
（1）公共屋内施設	・ホール、体育館などの老朽化が進んでいる
（2）宿泊施設	・旅館約40軒、総客室数約1050室 ・ビジネスホテル系の宿泊施設はない
5. 既往計画	
（1）新幹線西九州ルート	・平成34年度開通予定 ・嬉野温泉駅は1時間に上下各1本程度の見込み ・嬉野温泉駅の乗降客数想定は2,100人/日
（2）嬉野市総合計画後期基本計画	・土地利用の基本方針：九州新幹線西九州ルートの整備効果を活かした魅力ある市街地形成と保養型・滞在型・体験型の健康保養地形成
（3）嬉野市都市計画マスタープラン	・駅周辺地区の位置づけ：新たな都市交流拠点の形成に向けた高次都市機能の集積核
（4）嬉野温泉駅周辺整備基本構想・基本計画	・まちづくりのテーマ「人・もの・情報がふれあうもてなし交流拠点」
（5）嬉野医療センター移転計画	・平成30年度開院予定

Ⅱ 駅周辺まちづくりの目標

1. 上位計画から導かれる駅周辺まちづくりの目標

- ・ 嬉野市総合計画後期基本計画では、嬉野市の土地利用方針として「九州新幹線西九州ルート of 整備効果を活かした魅力ある市街地形成と保養型・滞在型・体験型の健康保養地形成」を掲げている。
- ・ 嬉野市都市計画マスタープランでは、駅周辺地区を「新たな都市交流拠点の形成に向けた広域生活圏機能の集積核」と位置付け、以下の整備方針を掲げている。
 - 交通結節点機能の整備、嬉野医療センターの誘致、交流センターの整備等をまちづくりの核とし、広域生活圏機能の集積核の形成と、広域連携拠点にふさわしい顔づくりを推進
 - 嬉野医療センターの立地をふまえた企業誘致活動を推進
 - 都市の顔にふさわしい開発・土地利用等と町なみ環境づくり
- ・ 嬉野温泉駅周辺整備基本構想・基本計画では、まちづくりのテーマを、「人・もの・情報がふれあう『もてなし交流拠点』」としている。
- ・ 以上の上位計画を踏まえ、駅周辺まちづくりの目標を「交流機能の充実によって嬉野市全体の発展に寄与する」とする。



2. 交流の主な対象（ターゲット）

（1）来訪者利用と市民利用

- ・「交流機能の充実」を目標とするにあたって、交流の主な対象としては、観光客をはじめとする来訪者と、嬉野市民との二通りが考えられる。
- ・観光客等の来訪者の増加に寄与する交流機能を導入することで、嬉野の主要産業である観光業の一層の発展が見込める。
- ・一方、市内主要公共施設の老朽化が進んでおり、市民を対象とする施設を導入することでサービス水準は向上する。ただし、観光客の増加には直接結びつかないこと、市街地からやや離れるため、立地面では現状よりサービス水準が低下することが懸念される。
- ・これらの点から、観光客をはじめとする来訪者の増加を目指して交流機能を導入するものとする。

主な対象者	意義	課題
観光客等の来訪者	・観光客をはじめとする来訪者の増加に寄与する交流機能を導入することで、嬉野の主要産業である観光業の一層の発展が見込める	・来訪者数や効果は未知数
嬉野市民	・市内主要公共施設の老朽化が進んでおり、市民を対象とする施設を導入することでサービス水準が向上する	・観光客の増加には直接結び付かない ・市街地からやや離れるため、立地面では現状よりサービス水準が低下する



嬉野への来訪者増加を目指した交流機能の導入

(2) 来訪目的からみた客層の想定

- ・一般的な観光以外に、医療センター来訪、コンベンション、スポーツ系大会・合宿等も想定されるため、これらについて検討を行った。

①観光

- ・嬉野市への宿泊・日帰り客は合計年間約 200 万人に及ぶ。嬉野の経済を支える客層として、今後より一層充実した対応を目指す必要がある。

②医療センター来訪

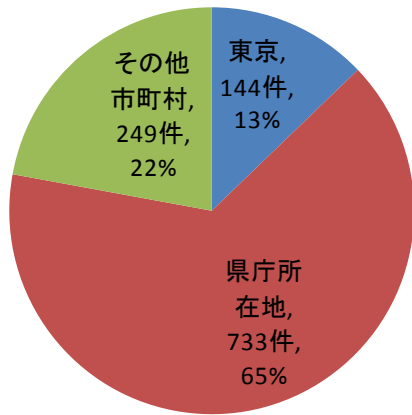
- ・嬉野医療センターは 2000 人/日程度の人出入りがある。
- ・外来患者は嬉野市内および周辺市町村に居住する人が大半である。患者の多くは自家用車またはバスで来院し、新幹線利用は少ないと想定される。
- ・センター内にコンビニや飲食施設が設置される予定であり、センター外での施設需要は未知数である。
- ・一般に、病院周辺には薬局の立地は見込めるものの、飲食店等の立地は少なく、病院への来訪客のみを対象とした施設の立地は厳しい。

嬉野医療センターの来訪者・職員等人数

外来患者	約 600 人/日
外来患者付添	約 300 人/日
入院患者	約 400 人/日
見舞客	約 100 人/日
職員・看護学生・保育園	約 900 人

③コンベンション

- ・国際会議統計によれば、参加者数 200 名以下の比較的小規模な国際会議であっても、約 8 割は東京または県庁所在地で開催されている。
- ・九州では福岡での開催が圧倒的に多く、大半の市町村の開催件数はひと桁台にとどまっている。
- ・統計の性格上、すべての会議を網羅しているわけではないが、地方都市におけるコンベンション誘致の難しさがうかがえる。
- ・一方、長崎、熊本、佐賀など各地でコンベンション施設が計画されている。コンベンションを持続的に開催していくためにはかなり積極的な誘致活動が必要と思われる。



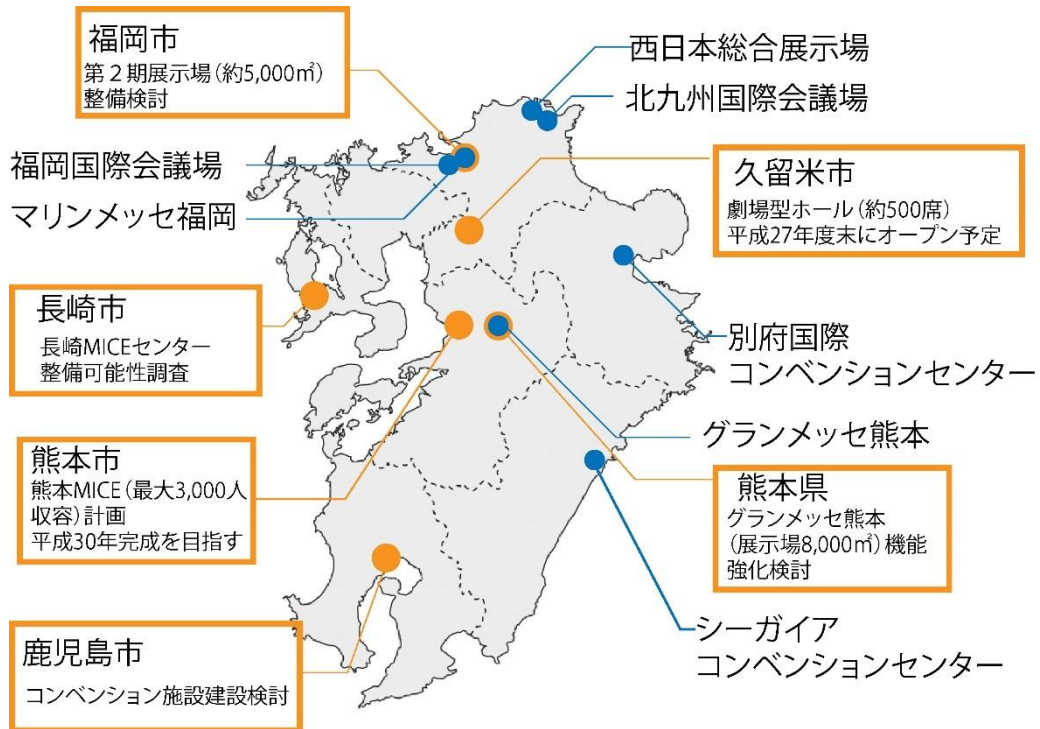
全国の国際会議開催地内訳
(参加者数 200 名以下)

北九州市	17
福岡市	170
久留米市	1
春日市	3
宗像市	1
長崎市	3
熊本市	3
別府市	2
宮崎市	3
鹿児島市	3
名護市	3
沖縄地区	1
恩納村	9
計	219

九州・沖縄の国際会議開催数
(参加者数 200 名以下)

資料：2013 年国際会議統計 日本政府観光局
対象とする会議：

- ・国際機関・国際団体または国家期間・国内団体が主催
- ・参加者総数 50 名以上
- ・参加国：日本を含む 3 ヶ国以上
- ・開催期間：1 日以上
- ・主催者からの掲載許可を得たもの
- ・企業内会議、大学などの研究機関が行う講義、投資セミナー、観光客誘致を目的とした観光セミナー、学習を目的とする研修会・教室、宗教団体の儀式・集会等は含まない



九州のコンベンション施設計画

④スポーツ系大会・合宿

- ・嬉野市内でのスポーツ系の大会・合宿は年間40件程度あり、宿泊者数は6,000人以上に及ぶ。
- ・野球をはじめ、屋外スポーツが多い。嬉野総合運動公園（みゆき公園）が整備されていることも屋外スポーツが多い理由のひとつと思われる。
- ・屋内スポーツ施設を充実させることで、より多様なスポーツ大会や合宿を誘致することも考えられるが、その場合はより詳細な需要の把握が必要である。

嬉野市におけるスポーツ関係の大会・合宿（平成25年度）

合宿・大会別			
	件数	参加者数	宿泊者数
合宿	16	519	2,227
スポーツ大会	20	7,546	3,956
計	36	8,065	6,183

競技種類別	
	件数
野球（硬式・軟式）	19
グラウンドゴルフ	2
サッカー	2
ソフトテニス	2
その他*	4
不明	7
計	36

*柔道、なぎなた、剣道、バレーボール各1件

団体種類別		県別	
	件数		件数
高校・大学	17	佐賀	10
連盟・協会	10	福岡	12
地域団体	8	長崎	8
民間企業	1	その他	6
計	36	計	36

⑤来訪目的からみた客層想定

- ・以上の検討結果から、観光目的での来訪者を主な対象とする。

観光	・年間約200万人の入込があり、嬉野の経済を支える客層として、一層充実した対応を目指す必要がある
医療センター 来訪	・2000人/日程度の人の出入りがある ・外来患者は嬉野市内および周辺市町村に居住する人が大半 ・センター内にコンビニや飲食施設が設置される予定であり、センター外での施設需要は未知数
コンベンション	・県庁所在地以外のコンベンション開催は少ない ・コンベンション施設整備は競争が激しい ・コンベンション需要の掘り起こしにはかなりの努力が必要
スポーツ 合宿等	・年間約40件の実績 ・機能強化による来訪者増加の可能性はあるものの、施設稼働率を高めるには、市民利用も考慮する必要



観光客を主な対象として想定

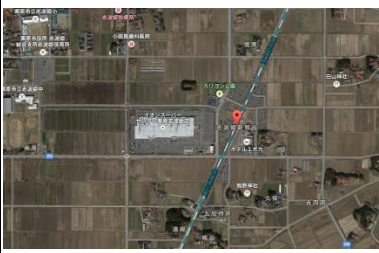


(3) 交通手段からみた客層の想定

①新幹線乗降客

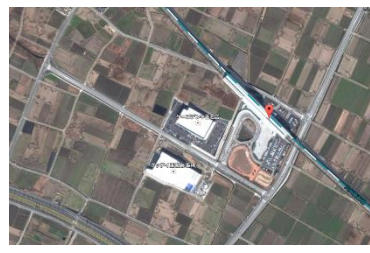


・嬉野温泉駅の乗降客数は2,100人/日、うち嬉野市への来訪者の乗降は約1,200人/日と推計されている。（新幹線嬉野温泉駅周辺整備基本計画 H22による）

目的地	地域住民	来訪者	計
嬉野市	397	1,198	1,595
鹿島市・太良町	68	21	89
波佐見町・川棚町・東彼杵町	413	19	432
合計	878	1238	2,116

・乗降客数が嬉野温泉駅と同程度で、既成市街地から離れている駅では、都市機能集積が進んでいない事例が多く、新幹線乗降客のみを対象とした観光客向け施設の立地は厳しいと考えられる。

			
駅名	くりこま高原駅（東北）	水沢江刺駅（東北）	新花巻駅（東北）
開業年	1990年	1985年	1985年
乗降客数	2,200人/日	2,100人/日	2,000人/日

			
駅名	上毛高原駅（東北）	本庄早稲田駅（東北）	安中榛名駅（上越）
開業年	1982年	2004年	1997年
乗降客数	1,500人/日	4,300人/日	550人/日

			
駅名	新玉名駅（九州）	新八代駅（九州）	新水俣駅（九州）
開業年	2011年	2004年	2004年
乗降客数			

乗降客数：JR 東日本ホームページ（2013年）
航空写真：Google

②道路によるアクセス客

- ・計画地西側に隣接する国道 34 号は広域幹線道路であり、武雄、波佐見、有田、伊万里、大村などの町と直結している。
- ・道の駅設置の目安が 5,000 台/日であるのに対して国道 34 号の交通量は約 10,000 台/日であることや、競合としては約 10km 離れた位置に道の駅が 2 店舗存在する程度であることから、道路によるアクセス客を対象とした商業施設立地の可能性はあるといえる。



広域交通網

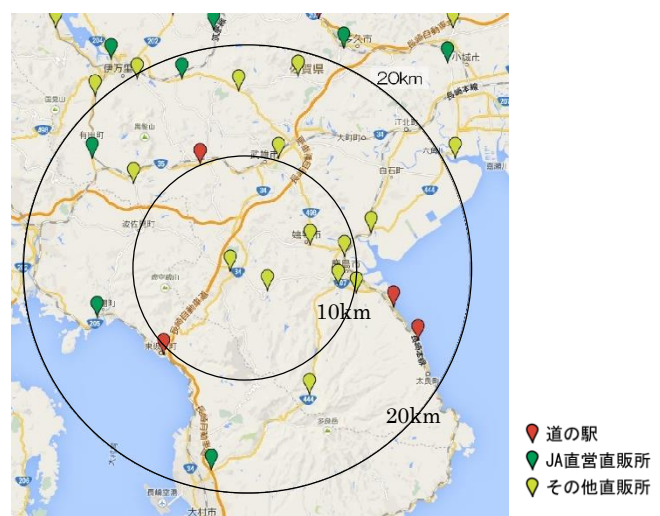
国道 34 号の交通量

24 時間交通量	13,324 台
12 時間交通量	10,341 台
12 時間大型車混入率	10.7%
混雑度	0.94
混雑時旅行速度	36.9km/h



交通量観測地点

資料：平成 17 年度道路交通センサス



道の駅の分布

資料：新幹線嬉野温泉駅周辺施設整備詳細計画

③交通手段からみた客層の想定

- ・一般的に、既成市街地から離れている新幹線駅では、都市機能集積が進んでいない事例が多いが、嬉野温泉駅の場合は新幹線乗降客だけでなく、国道 34 号からのアクセス客も見込むことができる。施設需要としては、新幹線客と道路によるアクセス客の両方を想定する。
- ・一方、新駅設置に伴う施設整備の意義として、新幹線による来訪客を掘り起こし、新たな観光需要を創出することが挙げられる。新幹線による利用がしやすくなるように駅前の整備を行い、今まで車では来ることのなかった新たな客層を開拓することが重要である。

新幹線	<ul style="list-style-type: none">・嬉野温泉駅の乗降客数は 2,100 人/日、うち嬉野市への来訪者の乗降は約 1,200 人/日と推計・既存事例からみて、新幹線乗降客のみを対象とした観光客向け施設の立地は厳しい
道路からのアクセス	<ul style="list-style-type: none">・計画地西側に隣接する国道 34 号によって武雄、波佐見、有田、伊万里、大村などの町と直結・国道 34 号の交通量は約 10,000 台/日であり、道路によるアクセス客は一定数を見込むことができる



- ・ **新幹線・道路からのアクセスの両方を想定**
- ・ **新幹線利用をしやすくすることで、公共交通機関による来訪客層を掘り起こす**

3. 嬉野地区全体の中での駅前まちづくりの位置づけ

(1) 地区全体の整備の考え方

- ・既存温泉街を含む嬉野地区全体の発展の方向性を以下のようにとらえる。

①【中心街】嬉野観光の中心地としての、温泉街の魅力向上

- ・嬉野の観光の中心はあくまで中心温泉街にある。温泉街の魅力を向上させることが、嬉野の観光の一層の発展を促す上で非常に重要である。
- ・たとえば以下のような整備が求められる。
 - 歩いて楽しい、「湯の街」の風情を感じられるまち並みの整備
 - 宿の外でも楽しめる、店舗・飲食店等の充実
 - 水辺の魅力の向上

②【周辺地区】立ち寄りポイントとなる、周辺の観光拠点の充実

- ・嬉野地区は宿泊客の立ち寄りポイントが少ないことが課題として挙げられている。中心温泉街周辺の観光拠点を充実していくことで、何度も行きたくなるような宿泊観光地を形成するとともに、滞在時間を延ばすことによる客単価アップを図っていくことが望まれる。
- ・具体的には以下のような拠点の充実が必要である。
 - 駅周辺：嬉野の新たな玄関口としての各種機能の充実
 - 医療センター跡地とその周辺：跡地の活用・隣接する公園や池の整備
 - 轟の滝周辺：滝周辺整備、嬉野茶交流館の整備
 - 駅と温泉街を結ぶ地区：店舗・飲食店等の誘致

③【ネットワーク】駅と温泉街を結ぶネットワークの形成

- ・新幹線駅設置という機会を最大限活かすためには、新幹線による利用がしやすいよう、公共交通ネットワークを充実し、新幹線利用を促していくことが必要である。
- ・また、歩いて楽しい散策路を整備していくことも、新幹線利用を掘り起こすことにつながる。
- ・このような点から、以下のような施策が望まれる。
 - 駅を拠点としたシャトルバス等の公共交通の充実
 - 水辺を活かした散策ルート整備
 - バス・散策ルート沿いへの店舗・飲食店等の誘致

(2) 駅周辺まちづくりの役割

- ・以上のような地区全体の整備の方向性の中で、駅周辺まちづくりの役割は以下のようにとらえることができる。

①嬉野の新たな玄関口としての機能の充実

- ・嬉野の新たな玄関口として、今まで車では来ることのなかった新たな客層を掘り起こしていくことが必要である。
- ・そのためには、新幹線客が快適に利用できる交通拠点機能や、観光インフォメーション機能を充実させていくことが必要である。

②新たな立ち寄りポイントとしての機能の充実

- ・嬉野の観光地としての魅力を高めるために、嬉野地区内の立ち寄りポイントとしての魅力を高めていくことが必要である。
- ・嬉野の魅力を伝える飲食・物販・体験機能の充実が望まれる。

③嬉野のイメージを向上させる、新たなシンボルとしての役割

- ・嬉野の課題として、歓楽街的なイメージがいまだに残り、観光客の憧れを醸成するような景観となっていないことが挙げられる。
- ・嬉野駅周辺地区は、新たな町の玄関口として、嬉野の顔となるようなシンボルとしての役割が期待される。
- ・特に、嬉野地区全体のイメージ向上に資するよう、健康と癒しの町、あるいは緑豊かな湯の町という、嬉野の魅力を十分にアピールできるようなまちづくりが必要である。
- ・駅周辺地区での魅力づくりが契機となって、嬉野地区全体に景観向上の機運が波及していくことが望まれる。
- ・また、イベントなどの交流を通じて嬉野をアピールする情報発信機能の充実も必要である。

④魅力を競い合うことによる、嬉野地区全体のレベルアップ

- ・競争相手がいることで、お互いがより一層高みを目指すことができる。中心街や他の立ち寄りスポットと魅力を競い合うことで、嬉野地区全体のレベルアップを図っていくことが必要である。

嬉野地区全体の整備の考え方

【中心街】嬉野観光の中心地としての、温泉街の魅力向上

- ・歩いて楽しい、「湯の街」の風情を感じられるまち並みの整備
- ・宿の外でも楽しめる、店舗・飲食店等の充実
- ・水辺の魅力の向上

【周辺地区】立ち寄りポイントとなる、周辺の観光拠点の充実

- ・日帰りでも一度来ただけでは足りない、何度も行きたくなる宿泊観光地
- ・滞在時間を延ばすことによる客単価アップ

○**駅周辺**：嬉野の新たな玄関口としての各種機能の充実

○**医療センター跡地とその周辺**：

- ・跡地の活用・隣接する公園や池の整備

○**轟の滝周辺**：滝周辺整備、嬉野茶交流館の整備

○**駅と温泉街を結ぶ地区**：店舗・飲食店等の誘致

【ネットワーク】駅と温泉街を結ぶネットワークの形成

- ・駅を拠点としたシャトルバス等の公共交通の充実
- ・水辺を活かした散策ルートの整備
- ・バス・散策ルート沿いへの店舗・飲食店等の誘致

駅周辺まちづくりの役割

○**嬉野の新たな玄関口としての機能の充実**

- ・新幹線客に対応した交通拠点機能
- ・インフォメーション機能

○**新たな立ち寄りポイントとしての機能の充実**

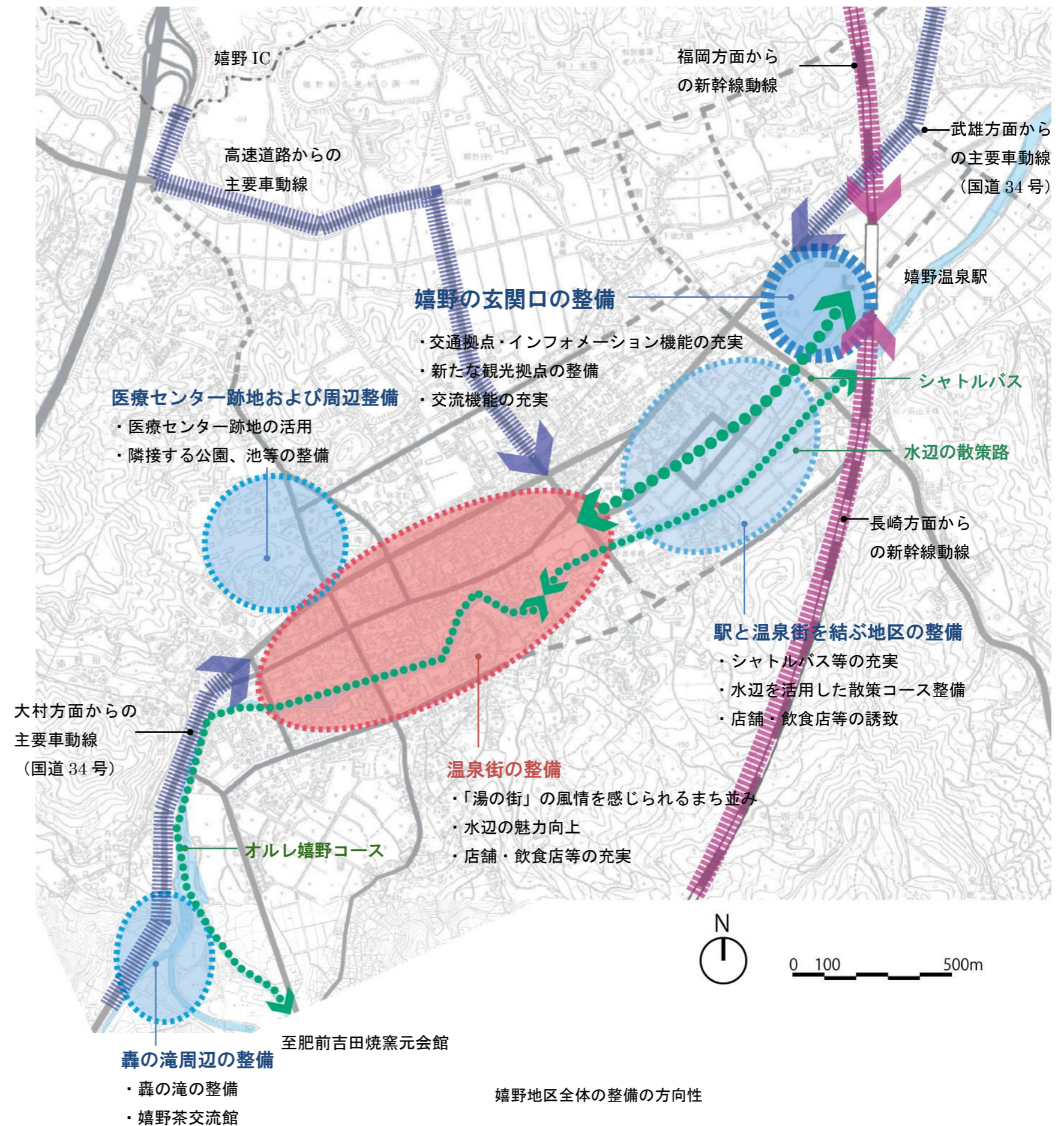
- ・嬉野の魅力を伝える飲食・物販・体験機能

○**嬉野のイメージを向上させる、新たなシンボルとしての役割**

- ・健康と癒しのまち、緑豊かな湯の街のアピール
- ・駅周辺の景観形成を契機に、他地区の景観向上の機運を醸成
- ・交流を通じて嬉野をアピールする情報発信機能の充実

○**魅力を競い合うことによる、嬉野地区全体のレベルアップ**

嬉野全体への来訪者増加、観光収入の増大



4. 計画の目標

- ・以上の検討結果から、駅周辺まちづくりの計画目標を以下のように設定する。

■計画の目標

健康と癒しのまちをアピールする 嬉野の新たなスタートポイント

●新幹線を利用して温泉宿にスムーズに行ける、旅のスタート地点

- ・駅～温泉宿間の快適な移動をサポートするとともに、必要な情報が簡単に入手できる環境を整え、新幹線利用客の増加を目指す。

●嬉野の魅力を新たな視点で高めていく、まちづくりのスタート地点

- ・宿泊客や周辺観光地への来訪者が楽しめるような、温泉街を補完する新たな立ち寄り拠点を形成する。
- ・訪れることで癒され、健康になるまちというイメージや、緑豊かな湯のまちという、嬉野の魅力を十分にアピールできるまちづくりを目指す。
- ・駅前から温泉街まで一体的に、歩いて楽しいまちを形成する。

5. まとめ

上位計画から導かれる駅周辺まちづくりの目標

交流機能の充実によって嬉野市全体の発展に寄与する

交流の主な対象（ターゲット）

- 市民利用と来訪者利用：嬉野への来訪者増加を目指す
- 来訪目的からみた客層想定：観光客を主な対象として想定
- 来訪手段からみた客層想定：
 - ・新幹線・道路からのアクセスの両方を想定
 - ・新幹線利用をしやすくし、公共交通機関による来訪客を増やす

嬉野地区全体の整備の考え方

- 【中心街】嬉野観光の中心地としての、温泉街の魅力向上
- 【周辺地区】立ち寄りポイントとなる、周辺の観光拠点の充実
- 【ネットワーク】駅と温泉街を結ぶネットワークの形成

駅周辺まちづくりの役割

- 嬉野の新たな玄関口としての機能の充実
 - ・新幹線客に対応した交通拠点機能
 - ・インフォメーション機能
- 新たな立ち寄りポイントとしての機能の充実
 - ・嬉野の魅力を伝える飲食・物販・体験機能
 - ・交流を通じて嬉野をアピールする情報発信機能
- 嬉野のイメージを向上させる、新たなシンボルとしての役割
 - ・健康と癒しのまちのアピール
 - ・緑豊かな湯の街のアピール
- 魅力を競い合うことによる、嬉野地区全体のレベルアップ

■計画の目標

健康と癒しのまちをアピールする
嬉野の新たなスタートポイント

- 新幹線を利用して温泉宿にスムーズに行ける、旅のスタート地点
 - ・駅～温泉宿間の快適な移動をサポート
 - ・必要な情報が簡単に入手できる環境形成
- 嬉野の魅力を新たな視点で高めていく、まちづくりのスタート地点
 - ・宿泊客や周辺観光地への来訪者が楽しめるような、温泉街を補完する立ち寄り拠点
 - ・訪れることで癒され、健康になるまちというイメージをアピール
 - ・駅前から温泉街まで一体的に、歩いて楽しいまちを形成

1. 導入機能の考え方

- ・前章で述べたように、駅周辺まちづくりには以下の役割が求められる。

- 嬉野の新たな玄関口としての機能の充実

- 新たな立ち寄りポイントとしての機能の充実

- 嬉野のイメージを向上させる、新たなシンボルとしての役割

- ・これらの役割を果たすために、以下の機能の導入を検討する。

①公共交通を利用する個人客がスムーズに旅館に行ける交通拠点機能

- ・公共交通を利用する個人客がスムーズに旅館に行けるよう、乗り換えの場を整備する。

②嬉野や周辺の情報を得ることができるインフォメーション機能

- ・嬉野や周辺観光地の情報を得ることができる機能を充実させる。

③嬉野の魅力を伝え、観光拠点ともなる飲食・物販・体験機能

- ・嬉野における新たな観光拠点の形成を目指して、飲食・物販機能や、健康をテーマとした体験機能を充実させる。
- ・新幹線乗降客だけでなく、国道経由での車による来訪客や、医療センター来訪者等を見込む。
- ・温泉、癒し、健康といった嬉野のイメージをアピールし、嬉野のブランドイメージを高めることができるような施設構成を目指す。
- ・医療との連携をテーマにした施設の導入も検討する。
- ・嬉野および周辺の農産品・工芸品等を積極的に扱うことで、嬉野市や周辺地域全体の産業発展に寄与する。

④交流を通じて嬉野をアピールする情報発信機能

- ・各種イベントの開催を通じて、市民と来訪者との交流を深め、嬉野をアピールできる情報発信の場とする。

⑤充実したバリアフリー機能

- ・以上を支える基本的機能として、バリアフリー機能を充実させる。
- ・たとえばスムーズな乗降が可能な交通施設、誰もが使いやすいトイレ・駐車場、外国人でもわかりやすいピクトグラムなど、きめ細かな対応を行う。

駅周辺まちづくりの役割

- 嬉野の新たな玄関口としての機能の充実
- 新たな立ち寄りポイントとしての機能の充実
- 嬉野のイメージを向上させる、新たなシンボルとしての役割



導入を検討する機能

①公共交通を利用する個人客がスムーズに旅館に行ける交通拠点機能



観光スポットを巡回するバス



レンタサイクル

②嬉野や周辺の情報を得ることができるインフォメーション機能



観光案内所



展示コーナー

③嬉野の魅力を伝え、観光拠点ともなる飲食・物販・体験機能



新鮮な地元産品を選べるマルシェ



個性的な品ぞろえのセレクトショップ



ゆったり過ごせるカフェ



入浴施設

④交流を通じて嬉野をアピールする情報発信機能



屋外イベント



屋内イベント



レセプション



研修・発表会

⑤充実したバリアフリー機能（以上を支える基本的機能として）

- ・スムーズな乗降が可能な交通施設
- ・誰もが使いやすいトイレ・駐車場等
- ・外国人でもわかりやすいピクトグラム など

2. 導入施設

(1) 施設一覧

- ・下記施設の導入を提案する。

導入検討施設	内容	規模の目安
1. 交通拠点機能 公共交通を利用する個人客がスムーズに旅館に行けるよう、乗り換えの場を整備		
交通広場	・バス、タクシーのスムーズな乗り換えの場	4000 m ² 程度
旅館送迎車待機スペース	・各旅館の送迎車両が待機するスペースを交通広場とは別に整備し、宿泊客のスムーズな乗り換えを可能とする	10 台分程度
団体バス用待機スペース	・駅での乗り換えがどの程度見込めるか不明のため、独立したスペースは設けず、旅館送迎車待機スペースと兼用とする	
待合室	・駅舎内の設置を想定	
循環バス	・将来的に駅と温泉を結ぶ循環バス路線を検討	
荷物配送受付	・駅～旅館間で荷物を運搬し、旅行者は手ぶらで散策が可能となる仕組みの導入を検討	
2. インフォメーション機能 嬉野や周辺観光地の情報を得ることができる機能を充実		
観光案内所	・嬉野および周辺の観光案内、宿泊・レンタカー・タクシー等の手配を行う ・駅舎内または駅出口に近い位置を想定	100 m ² 程度
3. 飲食・物販・体験機能		
<ul style="list-style-type: none"> ・嬉野における新たな観光拠点の形成を目指し、飲食・物販機能や、健康をテーマとした体験機能を充実 ・新幹線乗降客だけでなく、国道経由での車による来訪客や、医療センター来訪者等を見込む ・温泉、癒し、健康といった嬉野のイメージをアピールし、嬉野のブランドイメージを高めることができるような施設構成を目指す ・医療との連携をテーマにした施設の導入も検討 ・嬉野および周辺の農産品・工芸品等を積極的に扱う 		
直売所	・嬉野や周辺の農産物等を直売し、地域の農業振興の拠点とする ・集客の拠点のひとつとする	400 m ² 程度
物産販売	・嬉野や周辺の産品を中心に販売し、産業振興の拠点とする ・温泉、癒し、健康といった嬉野のブランドイメージを高めることができる店舗構成を目指す ・店舗毎に個性を出せる個店形式とする	1,500 m ² 程度
カフェ・レストラン	・癒しや健康をテーマとし、ゆったりとした時間の流れを楽しめる店舗を中心に構成する	
温浴施設	・美肌の湯を気軽に体験できる施設	500 m ² 程度
4. 交流・情報発信機能 市民と来訪者との交流を深め、嬉野をアピールできる情報発信の場		
駅前賑わい交流センター	<ul style="list-style-type: none"> ・多機能に使える屋内スペースを整備する ・市民が積極的に活用することで内外への情報発信ができる場とする (例) ・農産品・工芸品等の展示会・品評会・即売会 ・市内各種団体の発表会、展覧会 ・パーティー、披露宴など ・駅周辺のまちづくりに関する推進団体や、観光協会、市民活動グループ、NPOなどの活動拠点となる事務スペースを設ける 	500 m ² 程度 最大人員 200 名程度
交流広場	・交流センターと一体的に小規模な屋外イベントが行える広場を設ける	500 m ² 程度

(2) 類似事例

① 飲食・物販・体験機能

○ハルニレテラス

- ・JR 軽井沢駅より車で 15 分、しなの鉄道中軽井沢駅より徒歩 17 分。
- ・星野リゾートによる開発。
- ・自生していた 100 本を超えるハルニレ（春楡）の木立を生かしながら、9 棟のモダンな建物を広いウッドデッキでつないでおり、星野温泉の小さな温泉街を形成している。
- ・「軽井沢の日常」をテーマに 15 の個性あるショップやレストランが並ぶ。
- ・延床面積 1,727 ㎡
- ・近くには、日帰りでも楽しめる温浴施設「とんぼの湯」が設けられている。



○嬉箱

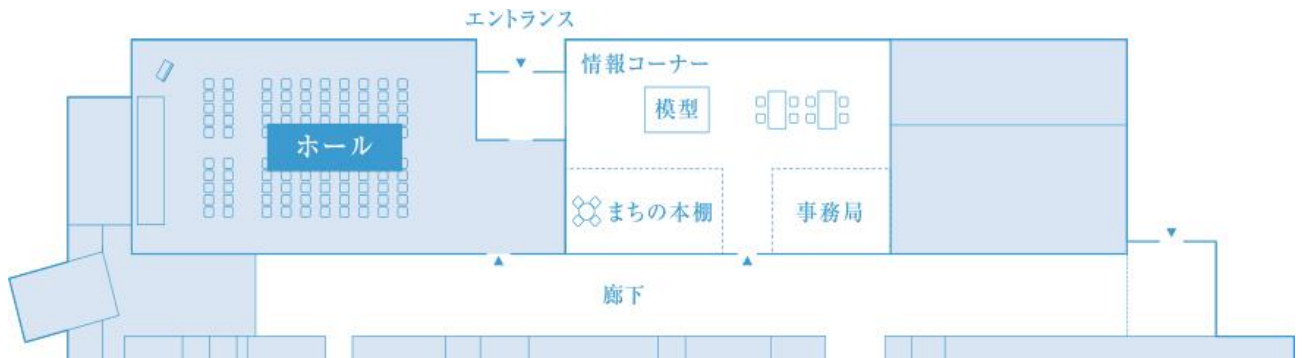
- ・嬉野温泉街に立地するカフェ+雑貨。ランチ、ディナーも提供。
- ・雑貨は地元産の陶製品、工芸品から北欧の家具まで扱い、いずれも洗練された品揃え。温泉客や地元客が食事、買い物に訪れる



②交流・情報発信機能

○アイランドシティ・アーバンデザインセンター（UDCIC）

- ・福岡市アイランドシティ（福岡市東区香椎照葉）のまちづくり拠点として開設。
- ・地域住民や、まちづくりに関わる様々な人達が集い、まちづくりの知恵を持ち寄って、アイランドシティの未来像（ビジョン）を共に描き、その実現に向けた取り組みを共に進める「開かれたまちづくりの場」を目指す。
- ・「公」「民」「学」それぞれの多様な組織や個人がUDCICを通じて協働し、市民活動・イベント・都市開発などの様々なプロジェクトをより魅力的なまちのデザインにつなげていくと共に、持続的なまちのマネジメントの仕組みを構築していく「公・民・学の連携」を推進。
- ・施設としては、事務局、情報コーナー、まちの本棚、ホールなどで構成されている。



施設平面図



<p>福岡市</p> <p>行政(官)、非営利組織(NPO)など、地域社会に必要な公的サービスを担う</p>	<p>照葉校区各種団体協議会 / アイランドシティ立地企業等連絡協議会 / 博多港開発株式会社</p> <p>市民、経済活動を行う企業等など、地域の活力と魅力の向上を担う</p>	<p>九州産業大学 / 九州大学 / 福岡工業大学 / 福岡女子大学</p> <p>教育研究機関や専門家など、専門知識や技術を基に先進的な活動を担う</p>
--	---	--

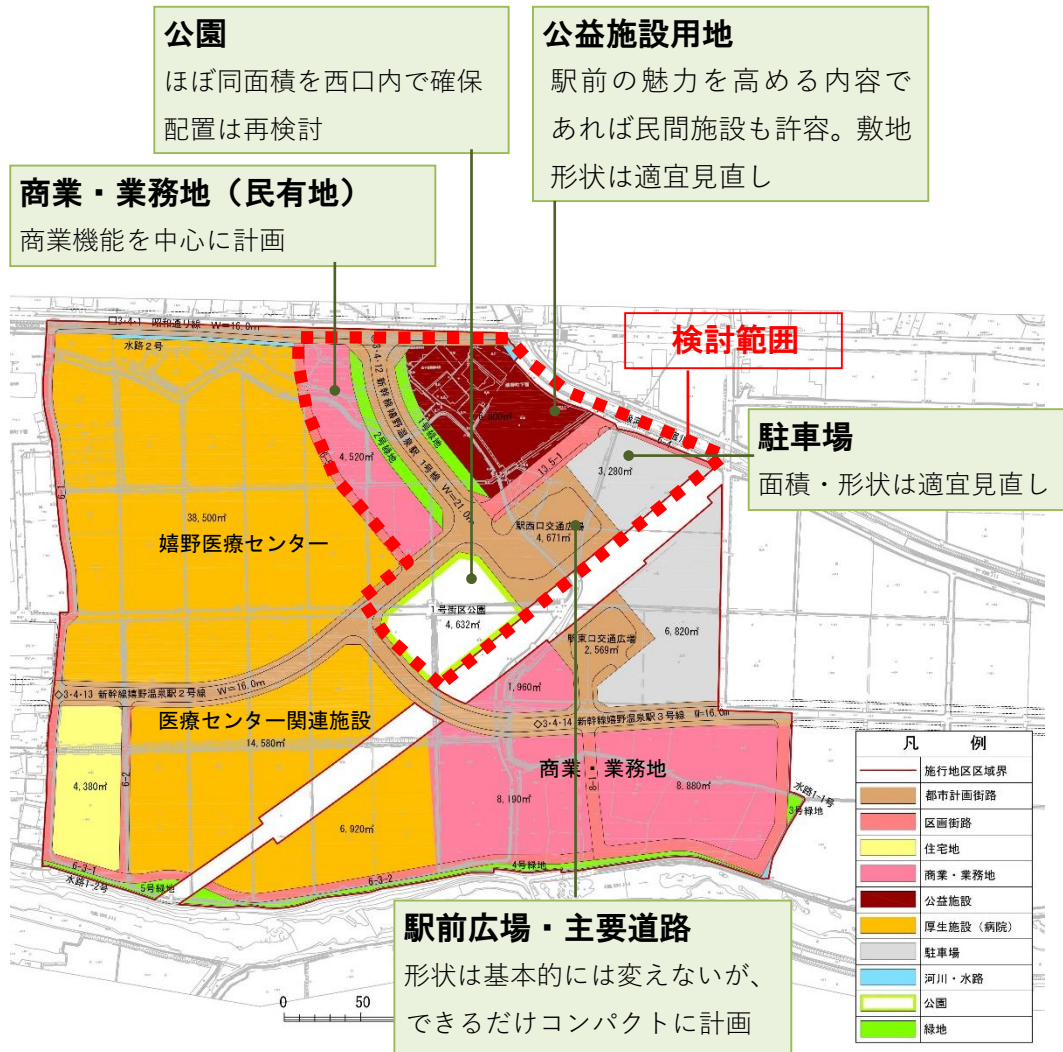
公・民・学連携の概念図

図・写真出典：UDCIC ホームページ

IV 土地利用方針の検討

1. 検討の前提条件

- ・土地区画整理事業区域のうち、下図の範囲について検討を行う。
- ・駅前広場と主要道路の形状は基本的には変えないが、駅前広場の形状はできるだけコンパクトに計画する。
- ・駐車場の面積・形状は適宜見直す。
- ・公益施設用地については、駅前の魅力を高める内容であれば民間施設も許容するものとし、敷地形状は適宜見直す。
- ・商業・業務地は基本的に商業機能を中心に計画する。
- ・公園はほぼ同面積を西口内で確保する。配置は再検討する。



検討の前提条件

2. 土地利用の考え方

○全体を統一的に整備

- ・地区全体で集客力を高めるために、嬉野の新しい観光拠点としてのイメージづくりを徹底して行うことを目指すものとし、医療センターに隣接する民有地も含めて全体を統一的に整備する。

○森の中に小さな建物をちりばめた、親しみやすいまち並み

- ・小さな建物を森の中にちりばめるような配置とすることで、自然に恵まれた親しみやすい温泉まちを象徴するような景観を形成するとともに、中小事業者でも出店しやすい規模とする。

○広場を環状につなげた回遊動線

- ・地区全体を回遊しながらゆったりと楽しめるように、立ち止まって休めるような広場を点在させ、これらを通路で環状につなげる。

○利用しやすい公共交通と駐車場

- ・駅を降りてすぐにバスやタクシーに乗れるよう駅前広場を配置する。
- ・旅館送迎車用待機スペースを駅に近い位置に設け、駅と旅館をスムーズにつなぐ。待機スペースからは駅前の豊かな緑が見えるような配置とし、快適な旅を演出する。
- ・駐車場は外周部に配置し、歩行者の回遊動線と分離しつつ、各施設にアクセスしやすくする。

○駅前の賑わい交流拠点

- ・駅前賑わい交流センターと交流広場を駅に近い位置に配置し、駅周辺まちづくりや、交流活動の拠点とする。





国道側からの全景



駅側からの全景



駅ホームからの景観



①



②



駅前広場鳥瞰



③

駅前広場



①



②



駅前賑わい交流センター鳥瞰



③

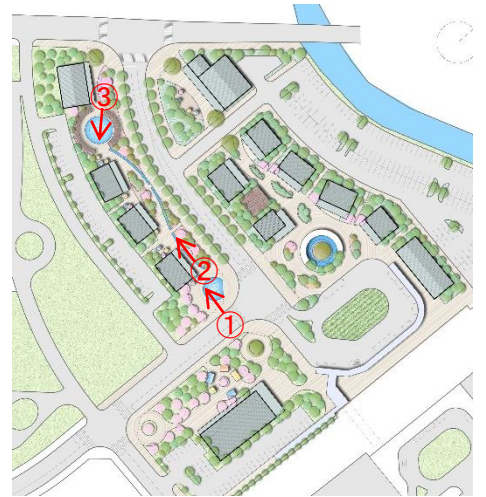


④

駅前広場・駅前賑わい交流センター周辺



①



②



鳥瞰（駅側から）



③

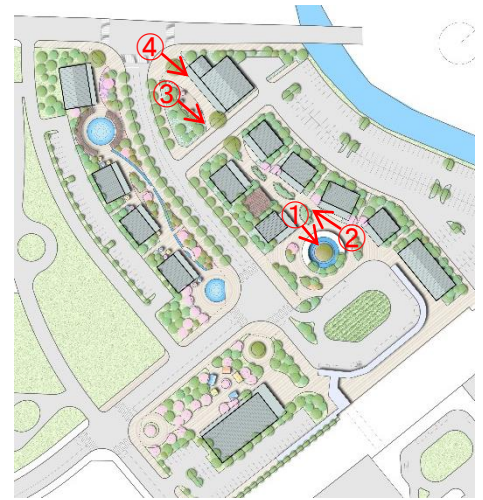


鳥瞰（国道側から）

民有地周辺



①



②



鳥瞰（駅側から）



③



鳥瞰（国道側から）



④

公益施設用地周辺

3. 景観形成イメージ

○森の中にたたずむような、緑に包まれたまち

- ・ 嬉野温泉は山に囲まれた渓流沿いに位置し、自然環境に恵まれているが、現在の温泉街は必ずしも豊かな自然を感じられない。駅前に緑豊かなまち並みを形成することで嬉野本来の魅力をアピールするとともに、温泉街の景観向上のきっかけとする。
- ・ 由布院をはじめ、緑豊かな景観が観光客を惹きつけている例は多い。集客効果を高める意味でも、森の中を歩くような景観を形成する。
- ・ 明るいイメージの落葉樹を主体に、花や実を楽しめる樹木を多用し、季節を感じられる植栽とする。



嬉野温泉の本来の姿
(嬉野温泉観光協会 HP の写真)



由布院



阿蘇一の宮



ハルニレテラス



緑の中の店舗



○緑に溶け込む、開放的な建物

- ・シンプルな形状とし、建物自体を目立たせず、緑の中に溶け込む景観を形成する。
- ・建物の中の様子が外からも見えるよう、ガラスを多用し、建物内外が一体となって賑わいを形成する。



表通りに面するカフェ（福岡）



公園内のカフェ（福岡）

○温泉らしさの展開

- ・足湯や水景施設の導入により、温泉まちらしさを演出する。



足湯



手湯



流れ



噴水

○ゆったり佇む場の提供

- ・座れる場所を随所に設け、緑の中でゆったりと過ごせる場とする。
- ・建物には深い庇を設け、雨や日差しをよけて思い思いに過ごせる場とする。



屋外でくつろげるカフェ（福岡）



パラソル（岡垣）



休憩コーナー



庇の下のスペース

○屋内外が一体となった、緑の中の賑わい空間

- ・駅前賑わい交流センターと交流広場が一体となって、緑に包まれた賑わいの場を形成する。
- ・交流広場については、開催頻度の少ない大規模なイベントに対応した面積とすると、ふだんは閑散とした雰囲気となることが懸念される。より頻繁に開催しやすい中小規模のイベントを想定し、小面積の広場が緑の中に複数点在する形として、イベントの規模に応じた広場の使い方を可能とするとともに、イベントがない時も落ち着いた佇まいを感じられる環境を形成する。
- ・駅前賑わい交流センターは駅前広場に直接面するのではなく、森のような環境の中に包み込まれるような配置とすることで、嬉野全体の豊かな環境形成の規範となるような景観を形成する。



駅前賑わい交流センター

1. 事業化に向けての基本的な考え方

(1) 官民の適切な役割分担

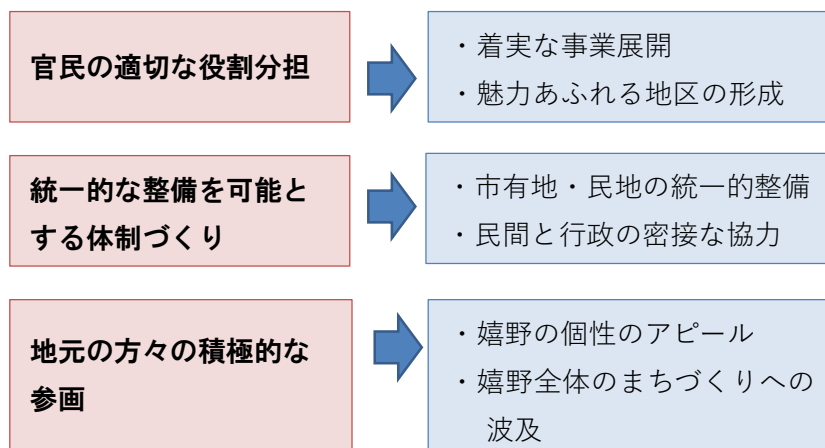
- ・本計画は、これまで農地だった場所にまったく新しいまちを作り、新たな観光拠点にしようとする試みである。
- ・実現にあたっては、官民の適切な役割分担によって、着実な事業展開を図りながら、魅力あふれる地区に育てていく必要がある。

(2) 統一的な整備を可能とする体制づくり

- ・本計画は、市有地と民地を一体的に整備することで、嬉野の新しい観光拠点を作ろうとするものである。
- ・また、施設内容についても、民間と行政の密接な協力が必要となる。
- ・こうした、市有地と民地、民間と行政といった垣根を越えた、統一的な整備を可能とする体制づくりが不可欠である。

(3) 地元の方々の積極的な参画

- ・本計画は、嬉野の新たな「顔」として、嬉野の個性や魅力を最大限アピールするものとする必要がある。
- ・また、駅前まちづくりを契機として、嬉野全体のまちづくりを新たなステージへと高めていくものとなることが望まれる。
- ・こうした観点から、地元の方々の積極的な参画が望まれる。



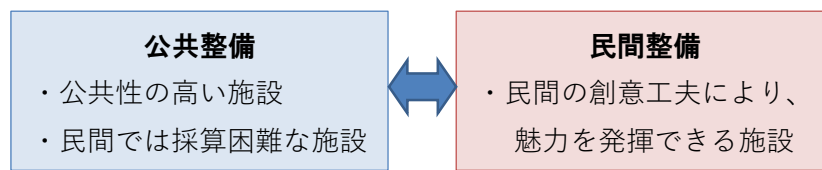
事業化に向けての基本的な考え方

2. 事業体制のありかた

(1) 役割分担の方針

- ・民間の創意工夫によって魅力向上につなげていくことができる店舗等の施設は、基本的に民間企業の整備とする。
- ・民間では採算をとることが難しく、公共性の高いものについては行政で整備を行う。
- ・店舗のうち直売所については、全国の道の駅のうち約9割は市町村が設置しており、また約8割が国の交付金や補助金を活用している*。このように一部の店舗については、今後検討の余地がある。

* 財団法人地域活性化センター「道の駅を拠点とした地域活性化」平成24年による



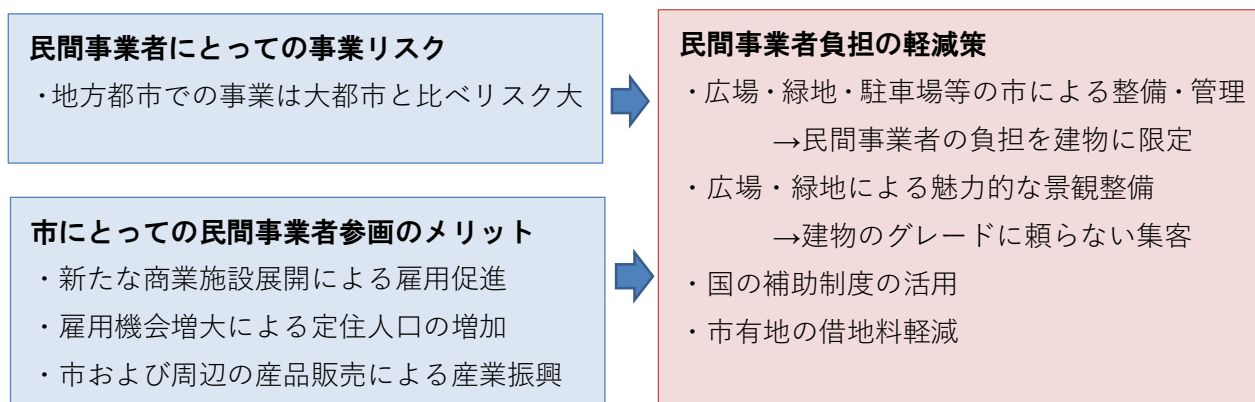
役割分担の方針

施設	公 共	民 間
交通拠点機能 ・交通広場 ・旅館送迎車待機スペース	●	
インフォメーション機能 ・観光案内所	●	
飲食・物販・体験機能 ・直売所 ・ショップ、カフェ等 ・温浴施設		●
交流・情報発信機能 ・駅前賑わい交流センター	●	
景観・環境形成 ・公園、広場、緑地 ・駐車場	●	

施設別整備主体

(2) 民間事業者の負担軽減

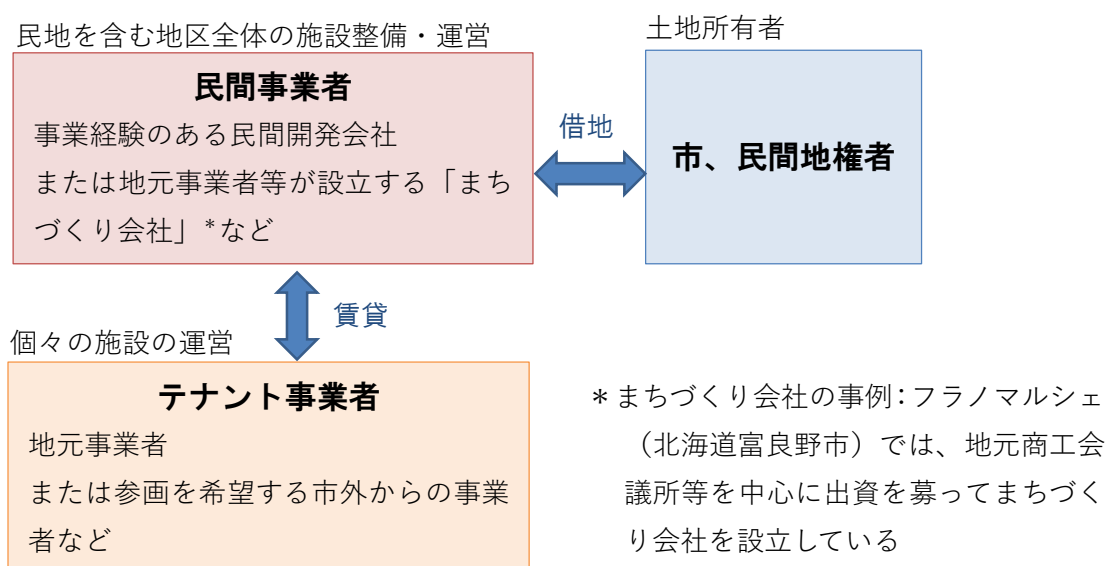
- ・一般に、民間事業者にとって、地方都市での事業は大都市と比べて事業リスクが大きい。
- ・一方で、民間事業者の参画は市にとっても多くのメリットがある。
- ・様々な手法により民間事業者の負担をできるだけ軽減し、着実な事業展開を図る必要がある。



民間事業者の負担軽減の方針

(3) 民間事業者の参画のありかた

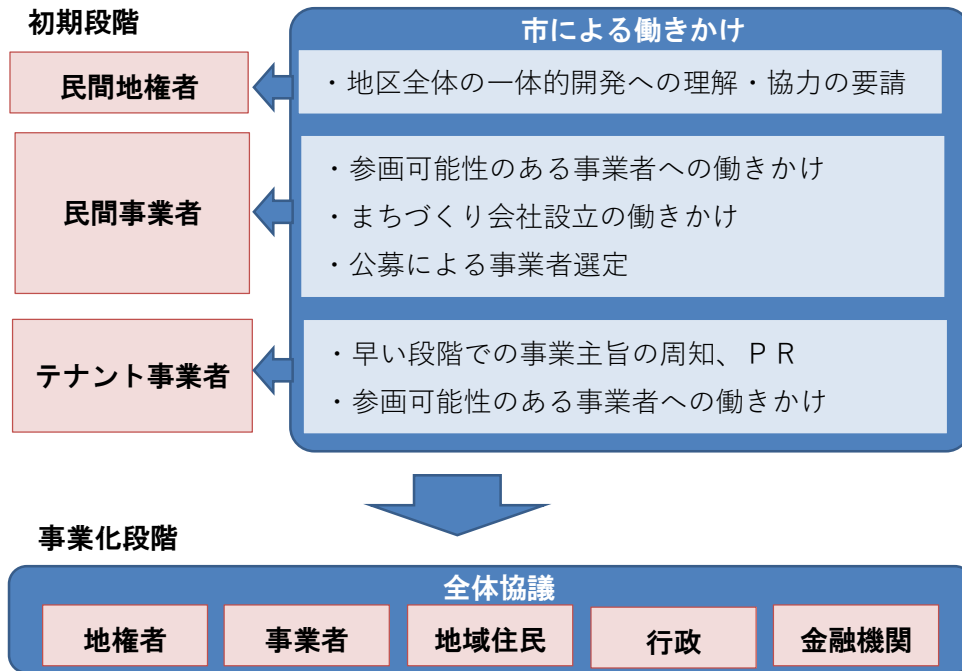
- ・地区全体を統一的に整備・運営していくためには、市有地だけでなく民地も含めて、同一の事業者が土地所有者から借地して事業化を進めていくことが望ましい。
- ・施設全体を整備・運営する民間事業者のもとで、個々の店舗にテナント事業者が入居し、バラエティに富む事業展開を図る。
- ・全体を整備・運営する民間事業者については、事業経験のある民間開発会社に任せる方法や、地元事業者等が「まちづくり会社」を設立して事業化を進める方法が考えられる。



民間事業者の参画のありかた

3. 事業推進のありかた

- ・事業を推進していくためには、多様な関係者の理解を得ながら、密接な協力体制を構築していくことが不可欠である。
- ・初期段階では、市が中心となって関係者を束ねていく必要がある。
- ・事業体制が固まった段階で、関係者による協議会組織を立ち上げ、緊密な連携を保っていく。



事業推進のありかた

4. 建設費概算

- ・事業規模の目安として、建設費の概算を以下に示す。
- ・一般的な単価に基づく、ごく粗い概算値であり、今後計画の具体化に合わせて、より高い精度での検討が必要である。

概算建設費

施設	面積 (㎡)	単価 (千円/㎡)	金額 (百万円)
【公共整備】			
駅前賑わい交流センター	500	250	125
公園・緑地・広場・建物外構	13,000	20	260
駐車場	7,300	3	22
小計			407
【民間整備】			
店舗	2,350	120	282
合計			689

- ・建設費のみを示すものであり、設計費、借入利子、租税公課、その他諸経費等は含まない。
- ・店舗建設費には、テナントが負担する内装工事は含まない。
- ・交通広場、道路等の整備費は含まない。

5. 事業スケジュール

- ・新幹線の開業は平成 34 年度、医療センターの開院は平成 30 年度と見込まれている。
- ・本事業は、新幹線開業を契機とした観光振興を大きな目的としていることから、新幹線開業に合わせて施設整備を行い、早期に賑わいを形成することが望ましい。
- ・ただし、土地区画整理事業による道路工事や整地工事は新幹線開業よりも早期に完了し、民間地権者の土地が利用可能な状態となる。このため、民間地権者との調整はできるだけ早期に行い、統一的なまちづくりを進めることが不可欠である。

事業スケジュール案

	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
新幹線	工事						▲開業予定
土地区画整理事業	道路工事等	整地工事・公園工事等			駅前広場等		
医療センター	▲開院予定						
民間地権者との合意形成	合意形成						
交通拠点・インフォメーション機能					施工		
飲食・物販・体験機能	合意形成	事業方式決定	事業者募集	設計	施工		▲開業
情報発信機能	合意形成	基本計画	設計		施工		▲開業

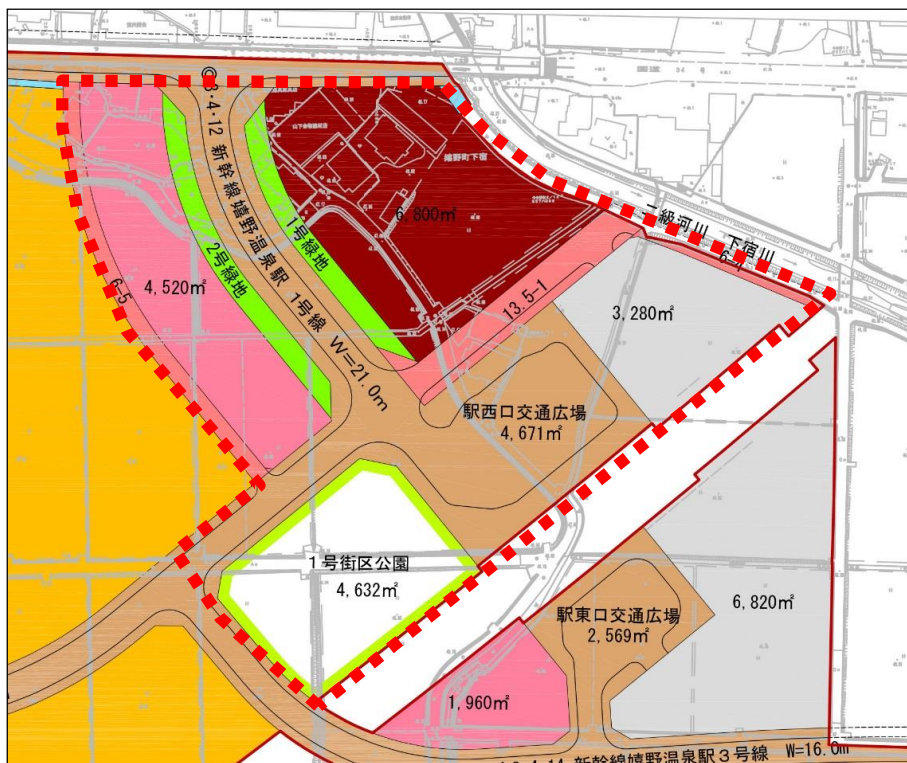
6. 用地配分の検証

(1) 検討の目的

- ・今回提案している配置計画を前提とした場合の、用地配分について検討した。
- ・配置計画自体は、駅前まちづくりのコンセプトをビジュアルな形で提示することを目的としており、今後の検討や民間事業者との調整によって変化していくものである。
- ・用地配分の検討は、土地区画整理事業との整合性を検証するとともに、問題点を把握するために行うものであり、事業計画としての確定を目的としたものではない。

用地面積の比較

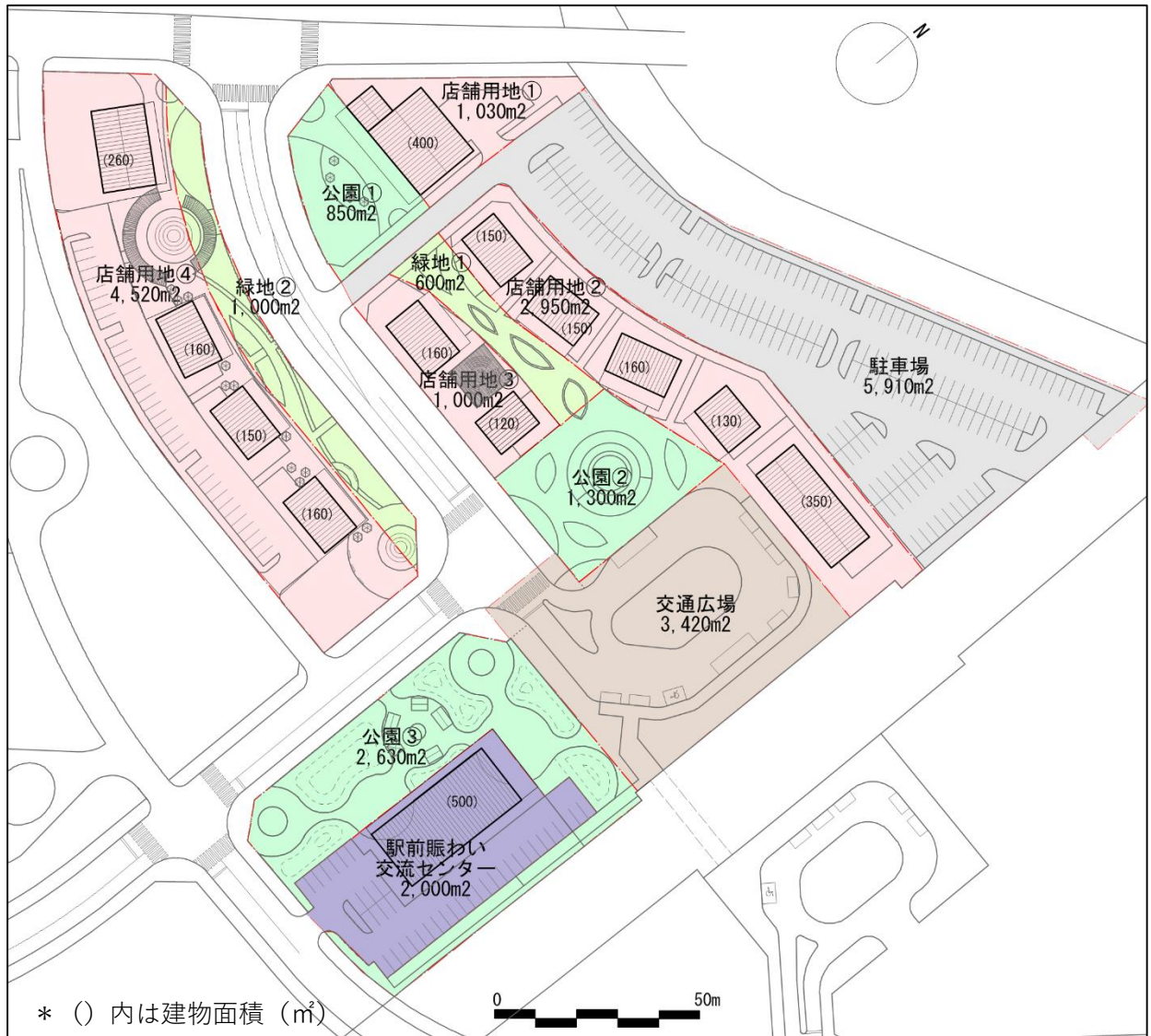
用地区分	敷地面積 (㎡)		備考
	今回計画	既往計画	
交通広場	3,420	4,671	
公園	4,780	4,632	最低必要面積 4,391 ㎡ (土地区画整理事業面積 146,375 ㎡の 3%)
緑地	1,600	1,823	
駐車場	5,910	4,764	既往計画の面積は、駐車場アプローチ道路を含む
商業・業務地	9,500	4,520	今回計画の面積は店舗用地合計
公益施設		6,800	
駅前賑わい交流センター	2,000	0	
計	27,210	27,210	



既往計画

(2) 検討結果と課題

- ・公園面積は、土地区画整理事業全体面積の3%以上確保することが必要であるが、これについては今回の検討区域内で確保可能である。
- ・今回検討では、店舗周りの外構や広場等も店舗用地に含めているが、一体的な環境形成や民間事業者負担軽減の観点からは、これらは市が整備することが望ましい（建設費概算では公共整備として算出）。これらの用地の扱いについては今後検討の必要がある。
- ・店舗用地②は道路に接していないため、街区全体を一体的に扱う「一団地認定制度」を適用するか、または緑地①や公園②の一部を道路として整備する等の方策が必要である。



今回計画面積

店舗用地内訳 (㎡)

	建物	広場	駐車場	その他 外構	計
用地①	400	-	230	400	1,030
用地②	940	-	-	2,010	2,950
用地③	280	280	-	440	1,000
用地④	730	530	1,140	2,120	4,520
計	2,350	810	1,370	4,970	9,500

7. 来訪客数等に関する試算

(1) 検討の目的

- ・今回提案した事業内容について、来訪客数や経済効果のおおよその規模感を把握するため、定量的な検討を行った。また、民間事業者側の採算性についても検証を行った。
- ・これらは試験的な概算であり、今後の計画検討の進捗にあわせて精査していく必要がある。

(2) 来訪客数の想定

①新幹線による来訪客数

- ・嬉野温泉駅の乗降客数予測（新幹線嬉野温泉駅周辺整備基本計画 平成 22 年）
 - 新幹線乗降客 2,100 人/日
 - うち他地域からの来訪者 1,238 人/日、周辺地域住民利用 878 人/日
- ・周辺地域住民の新幹線利用は遠隔地に出かけることが目的であり、駅前施設に立寄る率は低いと思われることから、ここでは算定対象としない。
- ・他地域からの来訪者すべてが駅前の施設に立ち寄りとして、立寄人数は $1,238 \times 1/2$ （行きか帰りのどちらかで寄ると想定） $\times 365$ 日 = 23 万人/年
- ・実際には来訪者全員が立寄ることはないため、これよりは小さい数字になると考えられる。

②車による来訪客数

- ・「一般道路の休憩施設計画の手引（案）（建設省中部地方建設局 平成 12 年度）」を参考として、国道沿道に施設を計画した場合の立寄人数を算定する。
$$\text{立寄人数} = L \times \text{計画交通量} \times \text{立寄率} \times 1 \text{ 台あたり乗車台数}$$
 - ・L：対象区間（休憩施設の設置区間）の延長 10～15km、最大間隔 25km
沿線には他に道の駅などの施設はないものの、武雄や嬉野の市街地を通過することから、10kmと想定する。
 - ・計画交通量：直近の平成 22 年度道路交通センサスでは計画地近辺での調査がされていないため、平成 17 年度道路交通センサスの値を用い、小型車 9235 台、大型車 1106 台（平日 12 時間交通量）とする。
 - ・立寄率：小型車 0.007、大型車 0.008
 - ・1 台あたり乗車人数 1.3 人/台（国土交通省 道路交通センサス H22）
- ・以上より、年間立寄客数は 35 万人/年となる。

③施設事例等に基づく想定

- ・下記の事例等から、年間 40 万人程度は見込めると考えられる。
 - 全国の道の駅の平均来訪者数 35.5 万人/年（平成 22 年 道の駅を拠点とした地域活性化）
平均床面積 412 m²
 - フラノマルシェ（北海道富良野市）の来場者数 80 万人/年 延床面積 1,340 m²
 - 『大規模小売店舗を設置する者が配慮すべき事項に関する指針』（通商産業省）による試算
(1,100-30 \times 店舗面積 2.4 (千m²)) \times 365 日 = 38 万人/年

④来訪客数の想定

・駅前施設への来訪者数は、施設自体の魅力、温泉街を含む嬉野全体でのプロモーションの効果、景気の動向、新幹線のダイヤ設定など、さまざまな要因によって変わってくるが、以上の検討結果からは、新幹線利用客と車による利用客を合わせれば、年間 40 万人程度の来客は見込むことが可能と考えられる。

⑤来訪客数からみた施設整備の意義

- ・平成 22 年に作成された新幹線利用客数予測は、新幹線開業によって嬉野市への観光客数が開業前の 1.3 倍（平成 20 年時点の観光客数 181 万人×1.3=235 万人/年）となることを前提に組み立てられている。平成 25 年時点の観光客数は 196 万人であり、現状より約 39 万人の増加を見込んでいることとなる。
- ・交通アクセスの改善だけで一定の観光客の増加は見込めるとしても、大幅な観光客増加を図るためには嬉野市全体の魅力向上が不可欠である。嬉野温泉駅前には国道からの立寄りも見込める好立地であり、この立地を活かして誘客効果の高い施設を整備することで、新幹線利用客数をできるだけ伸ばし、嬉野市全体への観光客増加を図っていくことが望まれる。

（3）経済効果

①年間売上高

- ・下記事例より、施設面積あたり年間売上は 100 万円/坪程度見込めると考えられる。
- ・床面積 700 坪として、年間売上は約 7 億円となる。

全国の類似施設の平均年間売上高

施設の種類	平均売上高 (万円/坪)	出典
小規模小売店	384	小企業の経営指標 2015
小規模飲食店	193	日本政策金融公庫
道の駅内特産販売所	158	道の駅を拠点とした地域活性化
道の駅内飲食施設	85	(財) 地域活性化センター

- ・この場合、来訪客ひとりあたり消費額は、7 億円÷40 万人≒1,700 円となる。
- ・嬉野市における観光客ひとりあたり飲食・土産物年間消費額は
消費額合計 67.1 億円÷年間入込客数 196 万人=3,423 円/人（嬉野市市勢要覧 2014）
- ・駅前地区での消費額は、嬉野市全体でのひとりあたり飲食・土産物消費額の約 1/2 に相当し、1 地区での消費額としてはおおむね妥当な数字であると考えられる。

②既存温泉街への波及効果

- ・新幹線開業による嬉野市への観光客増加は、前述のように約 39 万人と見込まれている。
- ・これによる嬉野市全体での観光関連の売上増加は
平均単価 6811 円/人×39 万人 = 27 億円/年
(平均単価は飲食・土産・宿泊・交通等を含めたもの。嬉野市市勢要覧 2014 による)
- ・このうち 7 億円は、前項のように駅前施設で消費されるとすると、残り 20 億円は主に既存温泉街の売上増加につながると考えられる。
- ・これは新幹線開業による経済効果であって、必ずしも駅前まちづくりの効果によるものではない。しかしながら、新幹線開業により観光客数を飛躍的に伸ばすためには、嬉野市の観光地としての魅力を向上することが不可欠であり、駅前の施設整備はそのための重要な施策であると考えられる。

(4) 民間事業者の事業採算性

- ・民間事業者の収支について試算を行い、事業性の評価を行った。
- ・検討結果は以下のようにまとめられる。
 - 外構工事費・管理費の市負担や市有地の地代免除など、市による立地優遇策をとった場合には、民間事業として成立する可能性がある。
 - これらの対策をとらない場合、民間事業としての成立性は厳しい。
- ・市による支援策としては、上記以外に下記のような方策も考えられる。これらについては今後さらに検討が必要である。
 - 民間地権者の所有地を市で買い上げ、安い賃料で民間事業者に貸与
 - 民間地権者所有地のうち、外構部分の賃料を市で負担
 - 店舗用地部分を民間地権者に、外構部分を市有地として再配分
 - 空き店舗となるリスクを軽減するために、市で一定の家賃保証を行う

VI 今後の課題

1. 事業化に向けての合意形成

- ・市・議会・市民の間で、事業実現に向けて合意形成を図っていく必要がある。

2. 事業の仕組みの構築

- ・本提案は、民間と行政の協働による事業実現を目指している。民間と行政の役割分担や、民間事業者の選定方法について検討していく必要がある。
- ・より地域に根ざした事業としていくために、外部の民間企業ではなく、まちづくり会社を設立して事業化を目指す方法も考えられる。こうした手法についても検討が必要である。
- ・具体的な事業スケジュールについても検討していく必要がある。

3. コーディネート体制の確立

- ・本事業には、民間事業者、店舗等への入居者、地権者など、多様な主体が関わることになるため、全体をコーディネートしていく体制を早期に確立する必要がある。

4. 民間地権者の土地も含めた一体的まちづくりの方策の検討

- ・駅前を新たな観光拠点としていくためには、民間地権者の土地も含めて一体的なまちづくりを行っていくことが不可欠である。
- ・そのための具体的な仕組みについて、早急に検討を進める必要がある。

5. 事業の具体像の検討

- ・関係者との合意形成を図りつつ、事業のより具体的な内容について検討を深めていく必要がある。
- ・市はユニバーサルデザインを重要な施策として位置づけており、徹底したユニバーサルデザインを今後の設計の中で実現していくことが重要である。

VII おわりに

以上を嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会の提言とする。

今後の嬉野市の発展のためには、この提言の実現が必要不可欠であると考えます。課題の解決も含め、今後さらに検討を深めていくことが重要である。

1. 委員会名簿

	役職	団体名等	氏名	備考
1	委員長	佐賀大学大学院 工学系研究科教授	三島 伸雄	
2	副委員長	イデアパートナーズ(株) 代表取締役	井手 修身	
3	委員	(株) アルセッド建築研究所	大川井 寛子	
4	委員	嬉野医療センター	野副 和行 藤野 弘幸	第2回まで 第3回より
5	委員	祐徳バス(株)	山口 守	
6	委員	嬉野紅茶振興協議会	松尾 俊一	
7	委員	(株) 佐賀新聞社	松尾 容子	
8	委員	嬉野市商工会	田島 洋文	
9	委員	嬉野温泉旅館組合	副島 瑠美	
10	委員	嬉野高校	原 慶介	
11	委員	佐賀県 まちづくり推進課	武藤 秀彰	
12	委員	嬉野市 うれしの温泉観光課		

	オブザーバー	九州旅客鉄道(株)		
	オブザーバー	鉄道・運輸機構		
	オブザーバー	佐賀県		
	オブザーバー	(株) 佐藤総合計画		

	事務局	嬉野市 建設・新幹線課		
	委員会運営	(株) アービカルネット	新田 裕司	
	アドバイザー	九州電力(株)	西村 健太郎	

2. 委員会開催日程

	開催日	主な内容
準備会	平成26年 12月 17日	・主な論点
第1回	平成27年 2月 9日	・まちづくりの目標 ・導入機能の例示
第2回	平成27年 3月 23日	・導入機能の基本的な考え方 ・土地利用配置（駅前広場変更についての意見交換）
第3回	平成27年 5月 18日	・導入機能の基本的な考え方 ・土地利用配置（基本的な方針）
第4回	平成27年 10月 5日	・土地利用配置 ・事業手法のイメージ
第5回	平成27年 12月 1日	・デザイン方針 ・具体的事業手法の検討
第6回	平成28年 2月 24日	・デザイン方針 ・具体的事業手法の検討

3. 佐賀大学大学院三島研究室演習成果

委員会での検討と並行して、佐賀大学大学院三島研究室の演習の一環として、嬉野温泉駅周辺のまちづくりに関する提案が行われた。

演習は3チームに分かれて行われ、それぞれ下記に示す成果が発表された。



最終発表風景

	提案のテーマ	発表者	委員会提言への反映
①	自然を引き込む遊歩道	ikumi IMARI shuhei ETO mizuki DAL	駅を公園に見立てて自然をメインに提案がされており、緑豊かな景観形成という形で委員会提言に反映した。
②	壁からつながる駅と街	yutato HIDAHA Khaing Myint Mo saya NAITO	国道と駅を結ぶ道路をメインストリートと位置づけて賑わいを形成する提案がされており、店舗等を連続させて賑わいを形成するという形で委員会提言に反映した。
③	嬉野屋根広場	yuki ARAMAKI tomoyuki KOGA hiroyoshi NAKA	各種の広場をつなげて回遊性を生み出す提案がされており、地区を巡る歩行者回遊動線の形成という形で委員会提言に反映した。

壁からつながる駅と街 —嬉野温泉駅プロジェクト—

yutato HIDAKA
Khaing Myint Mo
saya NAITO

●ダイアグラム

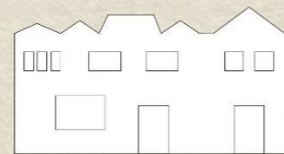
01 | 駅と茶畑をむすぶ軸線

この軸線をより強調させるために、軸線両サイドの道の形をシンメトリーにします。
駅から一歩足を踏み出すと同時に茶畑へと視線が誘導され、嬉野を強く印象付けるとともに
地元住民にとっても愛着ある場所となります。



02 | 伝統の形をかたどった歩車道分離壁

単に壁を立ち上げるのではなく、塩田町のような伝統的まちなみの外形線をかたどります。
壁の開口部は、もとの建物の位置と大きさをもとに作成し、
伝統的な形に対して現代的にアプローチします。



●配置図/平面図 (S=1/500)



売店	602 m ² + 194 m ² + 212 m ²
カフェ	786 m ²
レストラン	610 m ²
ギャラリー	140 m ² + 96 m ²
駐車場	10,000 m ²
国際会議場	3,248 m ²

● 設計コンセプト

佐賀県嬉野市は佐賀県西部に位置し、周囲を緩やかな山に囲まれています。今回の対象敷地となる嬉野温泉駅も、トンネルを通り、山々をくぐり抜けた先に位置しています。トンネルの先に広がる景色は、観光客など鉄道利用者にとって印象深い景色となるに違いありません。また、周辺には特に高い建物も見受けられないため、嬉野温泉駅は市の新しいシンボルになり得るでしょう。加えて、嬉野市は歴史の深いまちでもあります。地の利を活かして発展した塩田津の伝統的なまちなみをはじめ、非常に古い歴史を持つ嬉野温泉や嬉野茶は全国的に有名な嬉野市の構成要素です。

私たちは、この土地がもつこれらの魅力的なコンテンツを結びつける駅前空間を提案します。駅から広がる道路は周囲に広がる山と茶畑を強調させる形で配置させます。敷地の各所に計画する歩車分離壁は、歩行者の安全を確保するだけでなく、嬉野市が古くからもつ伝統的な形を現代的に解釈しています。

この歩車分離壁には人々のアクティビティが寄り添います。例えば、この壁沿いにある足湯を楽しみながら、地域の人々と観光客の交流が生まれるかもしれません。これは、地域住民からも観光客からも愛される駅前空間の提案です。



● 土地利用計画

01 | メインストリートの活用

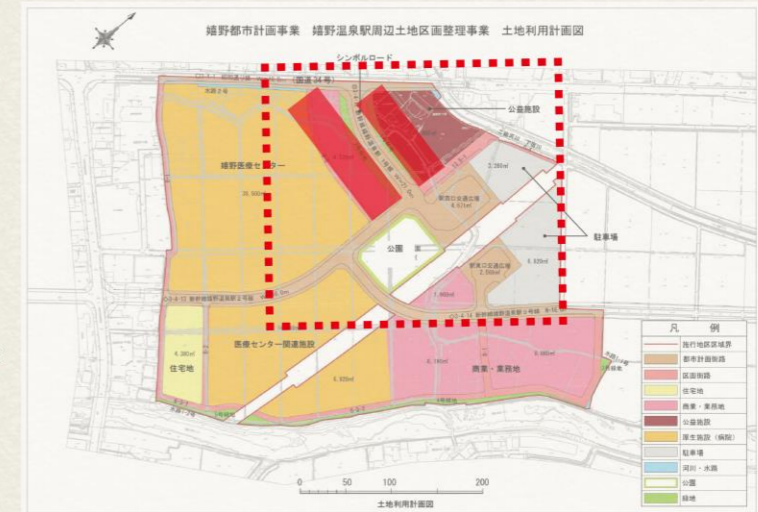
私たちは嬉野温泉駅にほど近い約80,000㎡の敷地への提案を行います。現段階での駅周辺土地区画整理案では、人通りが多くなるだろうと予測されるメインストリート沿いに公共施設及び業務用地が計画されていますが、私たちはメインストリートの両サイド約9,000㎡を多くの人々のアクティビティが生まれる場として利用します。人の行き来が活発になり、駅前通りの賑わいがより容易に実現されるものと期待します。

02 | 駅からの景観

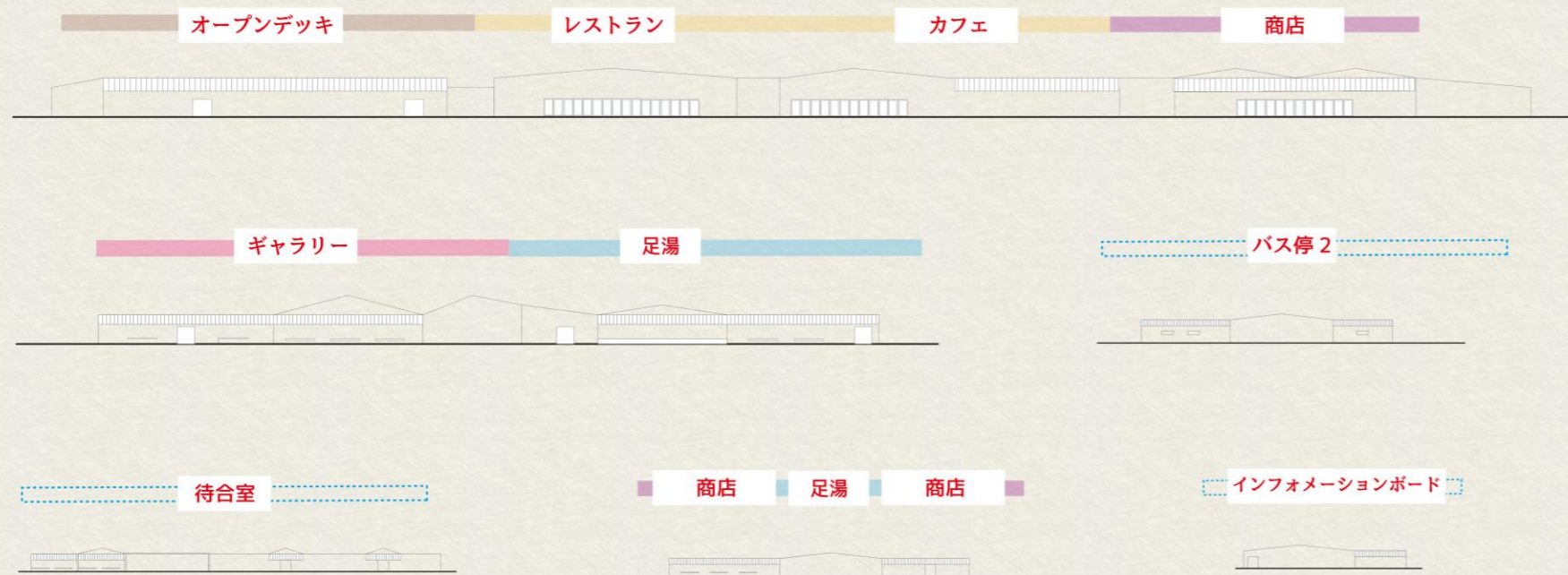
車窓からの眺めに影響を与えないために、低層の壁沿いに単層の建物を配置させます。単一のルールでデザインされた壁に多様な機能を付加させていくことで、単層ではあるものの利用者を飽きさせない空間を演出できます。

03 | 駐車場

計画案と同様に約10,000㎡を確保し、合計261台を駐車できるように計画しています。このうち16台はバリアフリー駐車スペースとし、駅により近い位置に配置します。駐車場を3か所に分散させることで、使用用途を限定でき、例えば駐車場ではなく広場としても活用できます。駅東口側には観光バスや旅館バスが利用できる大型駐車場を計画し、観光客に対する利便性を常に確保しています。



● 立面図 (S=1/300)



● 3Dイメージ



● 模型写真

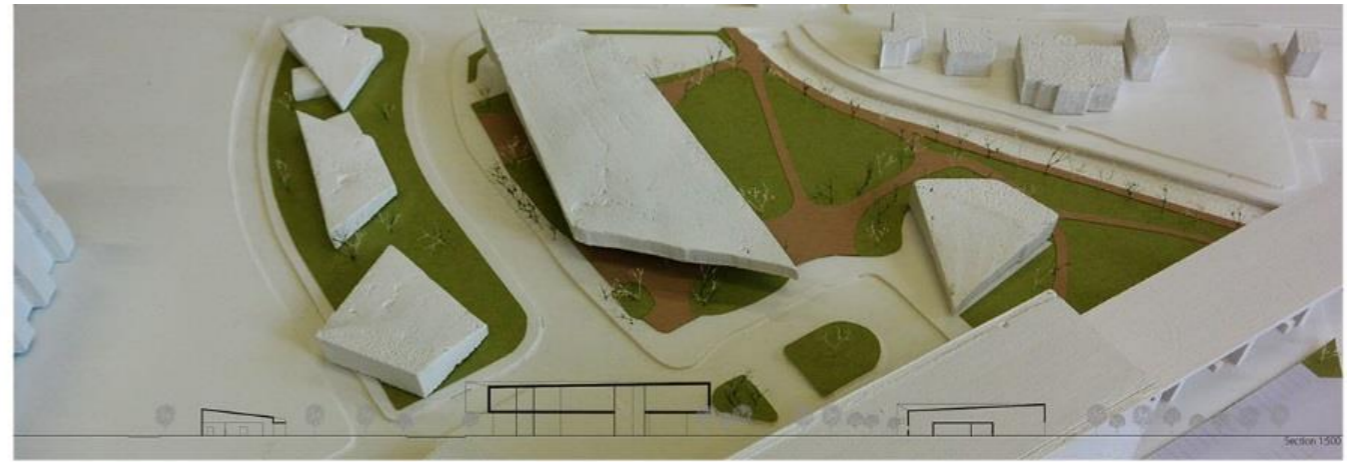


01: 計画敷地全体を望む。3か所に計画した駐車場。

02: 歩車分離壁。車と歩行者の動線を分けるだけでなく、人々のたまり場にもなる。

03: メインストリートの両サイドを用いて賑わいを演出する。

04: 道路の角には視線を誘導するための植栽を用いる。



建築・都市デザイン特別課題
自然を引き込む遊歩道

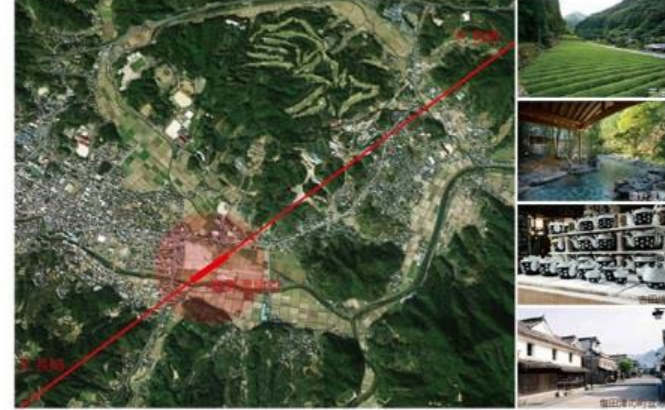
15572003 ikumi IMARI | 15577005 shuhei ETO | 15577009 mizuaki DAI

Site

自然と歴史の町「娘野」

佐賀県西南部に位置する娘野市は面積 126 km²、人口約 27,000 人の街である。周囲をなだらかな山で囲まれた盆地になっており、山中には多くの茶畑が見られる。娘野市は昼夜の温度差が大きいことからお茶の栽培に適した地域であり、お茶の産地として有名である。また、古くから長崎街道の宿場町として栄え、「日本三大美肌の湯・娘野温泉」として知られる。また、陶磁器も有名で江戸時代に鍋島藩主の奨励により「肥前吉田焼」が生まれ、食器類を中心に生産されている。

現在の娘野市は、江戸時代から長崎街道沿いの宿場町として栄えた。娘野市は開通当初は街道唯一の温泉街として賑わい、佐賀を代表する温泉として知られている。塩田宿は、かつては塩田川を利用した港として賑わい、現在でも白壁作りの町家が現れ当時の町並みが保存されている。近年になると、複数の村が合併し、娘野町、塩田町となり、2006 年には娘野町と塩田町が合併して現在の娘野市となった。



Concept

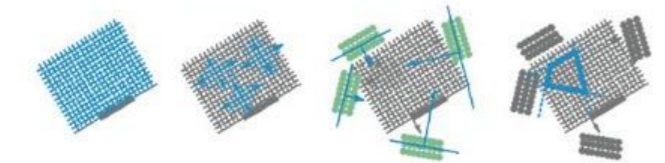
自然を引き込む散歩道

駅を公園のように見立てて自然をメインに提案する。駅を降りてまず目につくのは足湯カフェから続く公園である。カフェで電車の疲れを癒した後に公園の散歩道を散歩すると娘野の自然と触れ合う事が出来る。その散歩道の先には国際会議場や娘野の特産物などが販売されるお店が並ぶ。そのお店では陶器や和紙などを作る体験も出来る。駅前の足湯カフェの向かい側には娘野で採れた野菜などの直売所を配置する。地元住民なども気軽に立ち寄れる場所を造る事で、地元住民と観光客が触れ合えるような空間を造る。

Diagram

茶畑の向きによるボリューム決定

①線路に対して垂直・水平なグリッドを引く。 ②各ゾーニングの中心からグリッドの方向に矢印をのびます。 ③延長した矢印にぶつかる壁の方向で外壁を挿入する。 ④外壁が決定し、ボリュームが立ち上がる。



Reference

①娘野のイチオシを伝える道の駅

娘野市を中心に佐賀県で採れた野菜や娘野の名物の温泉豆腐などを揃えた道の駅を提案する。改札を出てすぐのところに配置することで、通勤に電車を使う地元の人や、病院のお見舞いに行く人が利用しやすくなる。また、観光客の人も道の駅に佐賀の特産物が集結する事で一目で佐賀のまたは娘野のイチオシが伝わる。



Reference

②娘野茶を多くの人に伝える茶屋

日本でも有名なお茶の産地娘野市の娘野茶を電車の待ち時間でも味わえるような茶屋を提案する。海外の観光客にも日本茶らしさを味わってもらえるように和室の空間でお茶を楽しむようにする。また、公園の景色を楽しみながらゆっくりとした時間が過ごせるような空間を提案する。



③歴史ある吉田焼インスレーション

食器類を中心に生産されている吉田焼の空間展示スペースとショップを提案する。有田焼よりも古くから存在し、歴史ある吉田焼をショップと一体として空間のなかに配置することで、より日常に親しみやすいものとなる。また、観光客のお土産としても親しまれ、吉田焼がより多くの人に広がる期待がもてる空間となる。



④市によって作られる多目的スペース

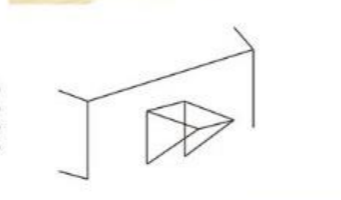
駅へ最初のアプローチとなる部分には多目的スペースを提案する。ここは隣の国際会議場のイベントの際には国際会議場の分室としての使い方ができる。また、普段は、市民の方が思いも思いに利用できる多目的スペースとなる。例えば、市民の方で価値がしたいという方がいたら一定期間を貸し出し、催展会場になる。そのような場所に観光客が訪れることで新たな人々のつながりが生まれる。



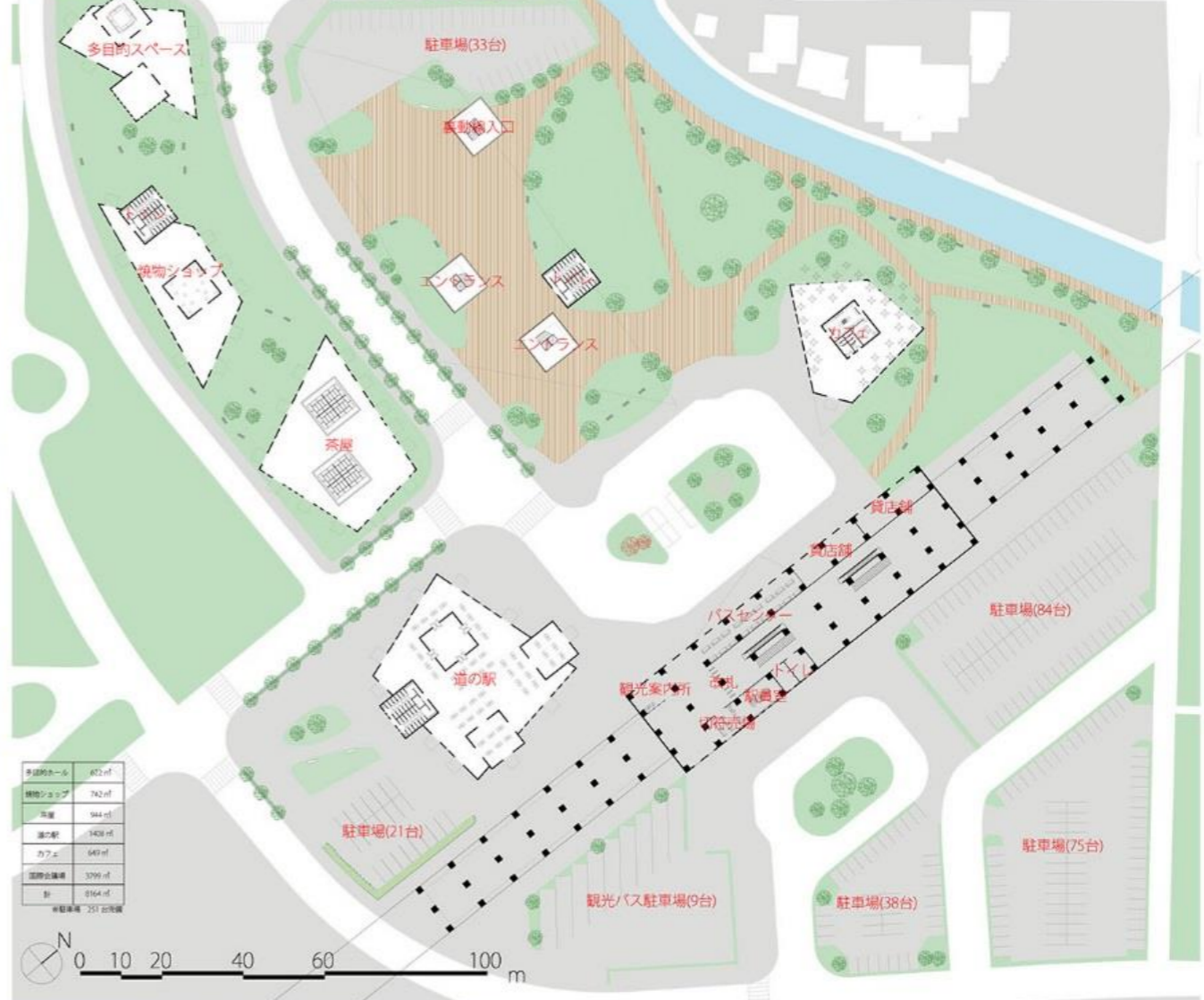
Design

漆喰壁と跳ね上げ戸

伝統的保存地区である塩田津にみられる白い漆喰壁と跳ね上げ戸をヒントにデザインしていく。跳ね上げ戸を通常は解放しておく事で川沿いの公園を取り込んだ開放的な空間が広がっていく。



Plan1500



嬉野屋根広場

YUKI ASAMARI
Tomoyuki KOGA
Hiroyoshi NAKA

■ Analysis of site

2006年1月1日に嬉野町と塩田町が合併して誕生した。ほぼ全域が周囲を比較的緩やかな山に囲まれた盆地であり、対象敷地の周辺も山に囲まれており、田地が広がったのどかな場所にある。

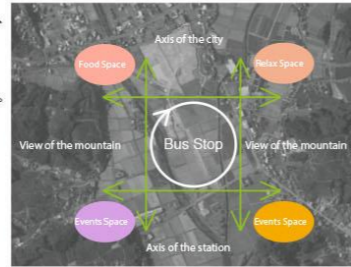
特産品として、嬉野茶・湯豆腐・陶磁器・温泉が挙げられる。なかでも嬉野温泉は年間に100万人以上の観光客が訪れる。



■ Concept of plan

交通機関の核となるバス停を中心に、都市に対して軸線を導く。両側が山に囲まれているので、山へ向かう軸線、都市に対して広がっていく軸線、そして他の県へ行く事のできる駅への軸線。それに沿うようにして、バスの周辺性を中心に配置することによりあらゆる方向への広がりを期待している。

また、軸線が重なる場所に人々が溜まることのできる場を設けることにより、多様な行動が駅周辺で活発に起こることを期待する。



■ Concept of section

周囲が山に囲まれている事から、山の形に呼応した屋根形状にすることにより、周辺環境に馴染ませようとする。また、庇の部分で庇すことにより屋根面に視線が自然と向かい周囲の豊かな環境に視線を向かわせる。そして、広い軒下部分はバスを待っている時に雨に濡れないという効果もありながら、各店との連携も考える事ができる。駐車場と段差を設ける事により交通と人の動線を分けるといった効果も得られる。

この断面形状は、嬉野市塩田町に古くから存在する「たなじ」を想起させる断面的操作を行っている。



■ Zoning

駅前での人の流れが止まってしまうように、バス停を中心として、それぞれ嬉野市に開通するお土産の拠点となるように配置する。地域や観光の拠点としての流れが町から他県まで広がっていく事を想像する。

また、バス停の向きを縦向きにすることにより、コンコースを出てからの視線の抜けをつくり出しさらに、この操作により出来たスペースを広場とし、それぞれの機能に対応した広場とする。特に広いイベント広場ではコンベンションセンターとの関連づけられ、外まで使える一体となった劇場としても利用することができる。

■ Plaza

- 食材広場
換新歩道がぶつかるこの場所は地域の食材が集う直売所を設ける。
- 体験広場
体験系の前かつロータリーの入り口付近にあるこの広場は、バスに乗っている人の目につきやすい位置にあり、体験系に観光客を誘導しやすいため屋外で作業などができる体験系のためのスペースとする。
- イベント広場
ホール、コンコース前にあり一番目につきやすい場所であり、大きなイベントを行うときのスペースとして活用する。
- 芝生広場
地域系と情報系の間にあるこの広場は、駐車場からも入ることができ、人の流れが多い場所である。そのため音楽やダンスを披露するなど小さなイベントのための場所として活用する。



長い軒下は移動が容易に行える場となり横方向の関係性が強められる。



コンベンションセンターも同様の屋根に一体化した場を形成する。



室内は木を使い、周辺の環境に合わせた暖かみのある印象を与える。



大通りから駅に向かい、車道の方向に動線や視線を誘導している。



芝生広場ではストリートライブ等が行われ床に座ってつらがる場となっている。



待ち合いはガラス張りにする事で色んな場面が混ざり合う場となる。

